

平成29年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

平成29年11月

松阪市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価	
1	事業評価の方法	2
	松阪市教育ビジョン基本構想図	3
2	各事業の2年間評価、事業年度、決算額一覧表	4~6
3	評価シート	7~46
4	総評	47
III	教育委員会の活動状況	47~48
IV	第三者評価（学識経験者の知見の活用）	49~53
V	おわりに	54

松阪市教育委員会は、平成19年12月に将来の松阪市を担う子どもたちをはじめすべての市民が暮らしやすい、「質の高い教育・文化にふれあうまちづくり」をめざし、今後10年間の松阪市の教育のあるべき姿を構築する「松阪市教育ビジョン」を策定しました。

松阪市教育ビジョンは、「夢を育み 未来を切り拓く 松阪の人づくり」を基本理念とし、誰もが心に抱いている「夢」をかなえていくための道案内を「夢ナビゲーション」と名付け、「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の3つの子ども像を実現するため、「ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の振興」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「輝け！松阪！新しい教育の創造」の6つの夢ナビゲーションを策定したものであり、教育委員会は、これに基づき、学校教育、家庭教育、社会教育などの教育機能の充実・連携を図るとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上に努めているところです。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

そこで、松阪市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様へ説明責任を果たすため、平成19年度の事務事業から「教育委員会活動の点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）の対象を「松阪市教育ビジョン」の6つの「夢ナビゲーション」とし、点検・評価を実施し、報告書にまとめ、公表してきました。

今年度点検・評価を行う事業は、28年度に教育ビジョンの改定を行っていることから当初の教育ビジョンの最終年度であり、27年度から継続して実施した事業を中心に、40の事務事業を対象として実施しました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務〔前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。〕の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 事業評価の方法

「夢ナビゲーション」別に各事業の事業目的、事業内容、検討課題、28年度の取組、今後の方向性・改善案と複数年にわたる事業の場合は、進捗度等の点検・評価を評価シートに表しました。

- 【評価】
- A：目的を達成し、計画どおりに事業を進めることができた
 - B：おおむね、計画どおりに事業を進めることができた
 - C：事業の進め方に改善が必要
 - D：事業規模、内容の見直し工夫が必要

- ※ 事業年度の最終年度が未定の場合については、継続中と表記しています。
また、1市4町の合併以前に実施されていた事業についての開始年度は平成17年度と表記しています。
- ※ 単年度で完結する事業であっても、その事業が開始された年度がわかっている場合は、その年度を表記しています。

基本構想図

夢を育み未来を切り拓く松阪の人づくり

- ★松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども
- ★思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども
- ★じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども

夢ナビゲーション

「将来の自分はこうありたい」という「夢」を抱き、その実現に向けて挑戦し続ける人は輝いて見えます。「夢」の実現という「目的地」に到着するまでの道案内を「夢ナビゲーション」としました。

夢ナビポイント

夢を実現する道の途中では、自らを高めようと精一杯努力したり、時には立ち止まり迷ったり悩んだりするなどの分岐点があります。その一つひとつの分岐点において達成すべきめあてや方向性を**夢ナビポイント**としました。

※夢ナビポイントは、市民の皆さんからパブリックコメントとしていただいた教育に期待する提言を参考としました。



5 夢ナビポイント

- 1 スポーツ・レクリエーション活動を通して健康づくりの推進
- 2 健康・競技・娯楽としてのスポーツ環境の充実
- 3 競技スポーツの振興

明るい生活を支えるスポーツライフの実現



6 夢ナビポイント

- 1 松阪の教育特性を生かした教育改革の推進
- 2 学びを支える教育環境の充実
- 3 信頼と誇りのもてる学校づくりの推進

輝け!松阪!新しい教育の創造



4 夢ナビポイント

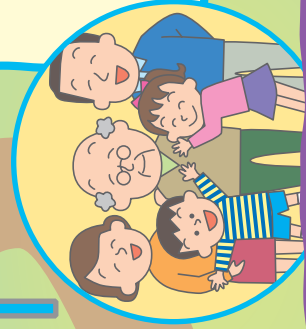
- 1 個性あふれる文化・芸術の振興
- 2 市民文化・芸術活動の創造
- 3 豊かな文化遺産の活用と次世代への継承



3 夢ナビポイント

- 1 生涯学習活動の推進のためのシステムづくり
- 2 青少年の健やかな育ちのサポート
- 3 市民が集い、学び合える環境の充実
- 4 家庭・地域・社会における人権教育の推進

市民による、市民のための生涯学習の推進



1 夢ナビポイント

- 1 “キラキラ”笑顔が輝く楽しい教育内容の創造
- 2 新たな子育て支援の充実
- 3 子どもの成長を支える研修の推進

ドキドキ!ワクワク!学びの芽生えを育む就学前教育の充実



2 夢ナビポイント

キッチリ!バッチリ!学びの基礎を育む教育の充実

- 1 確かな学力を育む教育の推進
- 2 豊かな心を育てる「心の教育」の推進
- 3 一人ひとりを大切にしている特別支援教育の推進
- 4 ふるさと松阪に学ぶ教育の推進
- 5 保育園・幼稚園から中学校までのつながりを大切にしている教育の推進

夢ナビポイント

- 6 みんなの人権を大切にしている教育の推進
- 7 外国人児童生徒教育の推進
- 8 学びの世界が広がる情報教育の推進
- 9 世界とふれあう、世界とつながる国際理解教育の推進
- 10 松阪の豊かな自然に学ぶ環境教育の推進
- 11 本との出会いを大切にしている読書教育の推進
- 12 将来の基礎を育むキャリア教育の推進
- 13 健やかな心と体をつくる食教育の推進
- 14 つながり合い、高め合う学校スポーツの推進
- 15 豊かな教育を支える教職員研修の推進

各事業の2年間評価、事業年度、決算額一覧表

(1)ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実

シート 番号	担当課	事業名	27年度 評価	28年度 評価	事業年度	27年度 決算額 (千円)	28年度 決算額 (千円)
1	学校支援課	外国語指導助手(ALT)事業	A	A	平成17年度～継続中	29,782	35,859
2	学校支援課	学力向上推進事業 (学力向上推進サポート事業)	A	A	平成26年度～継続中	6,699	10,013
3	学校支援課 (子ども支援研究センター)	教職員研修事業	A	B	平成17年度～継続中	1,292	1,183
4	学校支援課 (子ども支援研究センター)	教育相談事業	A	A	平成17年度～継続中	3,463	3,492
5	こども未来課	私立幼稚園就園奨励費補助金	A	A	平成17年度～継続中	26,792	28,637
6	こども未来課	幼稚園施設管理運営事業	A	A	平成17年度～継続中	227,149	244,862

(2)キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実

シート 番号	担当課	事業名	27年度 評価	28年度 評価	事業年度	27年度 決算額 (千円)	28年度 決算額 (千円)
1	学校支援課	外国語指導助手(ALT)事業	A	A	平成17年度～継続中	29,782	35,859
2	学校支援課	学力向上推進事業 (学力向上推進サポート事業)	A	A	平成26年度～継続中	6,699	10,013
3	学校支援課 (子ども支援研究センター)	教職員研修事業	A	B	平成17年度～継続中	1,292	1,183
4	学校支援課 (子ども支援研究センター)	教育相談事業	A	A	平成17年度～継続中	3,463	3,492
7	学校支援課	特別支援教育推進事業	A	A	平成17年度～継続中	58,822	76,648
8	学校支援課	いじめ等対策事業	B	B	平成21年度～継続中	12,916	13,294
9	学校支援課	地域の教育力活用推進事業	—	A	平成27年度～継続中	3,975	3,897
10	学校支援課	新たな学びの創造事業 (「教育の情報化」推進事業)	A	A	平成26年度～継続中	37,092	48,672
11	学校支援課 (子ども支援研究センター)	外国人児童生徒いきいきサポート事業	A	A	平成19年度～継続中	14,466	15,145
12	学校支援課 (子ども支援研究センター)	外国人児童生徒受入促進事業	A	A	平成22年度～継続中	4,437	4,156
13	学校教育課	児童生徒安全対策支援事業	—	A	平成17年度～継続中	4,744	4,117
14	給食管理課	学校給食単独調理場備品等整備事業	A	A	平成17年度～継続中	22,355	21,829
15	給食管理課	学校給食センター備品等整備事業	A	A	平成17年度～継続中	8,914	15,366

(3) 市民による、市民のための生涯学習の推進

シート 番号	担当課	事業名	27年度 評価	28年度 評価	事業年度	27年度 決算額 (千円)	28年度 決算額 (千円)
16	生涯学習課	こどもまつり大会事業	A	A	平成17年度～継続中	1,712	1,899
17	生涯学習課	青少年健全育成事業	B	B	平成17年度～継続中	6,434	6,486
18	生涯学習課	新成人のつどい開催事業	A	A	平成17年度～継続中	480	2,446
19	生涯学習課	図書館管理運営事業	A	A	平成17年度～継続中	127,458	127,534
20	生涯学習課	生涯学習振興事業	A	A	平成17年度～継続中	12,335	12,564

(4) 個性あふれる文化・芸術の振興

シート 番号	担当課	事業名	27年度 評価	28年度 評価	事業年度	27年度 決算額 (千円)	28年度 決算額 (千円)
21	文化課	市美術展覧会開催事業	A	A	平成17年度～継続中	2,654	2,612
22	文化課	文化芸術団体共催事業	A	A	平成24年度～継続中	120	137
23	文化課	文化センター自主事業	A	A	平成17年度～継続中	10,733	11,124
24	文化課	歴史的建造物公開事業	A	A	平成17年度～継続中	26,500	36,451
25	文化課	松坂城跡保存整備事業	A	A	平成25年度～継続中	11,842	7,100
26	文化課	文化財センター特別企画展等事業	A	A	平成17年度～継続中	2,828	3,181
27	文化課	松浦武四郎誕生地保存整備活用事業	A	A	平成19年度～平成30年度	16,484	57,336
28	文化課	指定文化財保存修理事業	A	A	平成24年度～継続中	5,112	5,040

(5) 明るい生活を支えるスポーツライフの実現

シート 番号	担当課	事業名	27年度 評価	28年度 評価	事業年度	27年度 決算額 (千円)	28年度 決算額 (千円)
29	スポーツ課	松阪市スポーツ推進計画策定事業	A	A	平成26年度～平成28年度	267	262
30	スポーツ課	全国大会等出場派遣支援事業	A	A	平成17年度～継続中	4,013	7,291
31	スポーツ課	スポーツ大会等運営事業	A	A	平成17年度～継続中	1,989	2,747
32	スポーツ課	シティマラソン大会事業	A	A	平成17年度～継続中	8,000	8,000
33	スポーツ課	スポーツ少年団補助金	A	A	平成17年度～継続中	2,960	2,873
34	スポーツ課	中部台運動公園施設整備事業	A	A	平成17年度～継続中	24,767	31,163

(6)輝け！松阪！新しい教育の創造

シート 番号	担当課	事業名	27年度 評価	28年度 評価	事業年度	27年度 決算額 (千円)	28年度 決算額 (千円)
35	教育総務課	松阪市立小学校プールのあり方検討委員会事業	新規	A	平成28年度～平成28年度	0	381
36	教育総務課	小学校施設維持修繕事業	A	A	平成17年度～継続中	74,989	82,950
37	教育総務課	粥見小学校校舎改築事業	A	A	平成27年度～平成30年度	1,549	45,196
38	教育総務課	中学校施設維持修繕事業	A	A	平成17年度～継続中	35,153	68,934
39	教育総務課	中学校防災防犯対策事業	—	A	平成27年度～継続中	26,881	37,025
40	教育総務課	鎌田中学校校舎改築事業	A	A	平成23年度～平成32年度	384,560	32,150

※27年度評価の「—」表記は、昨年度作成した平成28年度教育委員会活動の点検・評価報告書に掲載していない事業です。

評価シート

点検・評価対象テーマ	【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】				番号	1
	【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				評価	平成28年度
事業名	外国語指導助手(ALT)事業					A
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～継続中			
予算・決算	平成27年度決算	29,782 千円	平成28年度決算	35,859 千円	平成29年度予算	40,735 千円
事業の目的	<p>社会のグローバル化に対応するため、学習指導要領改訂により、平成32年度に小学校3・4年生に外国語活動が、5・6年生に教科としての外国語科が導入される。こうした英語教育改革の流れを見据え、より実践的なコミュニケーション能力の育成を図るために、外国語指導助手(ALT)派遣の充実、教職員の英語力・指導力の向上、国際理解教育の推進が強く求められる。</p>					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手(ALT)を学校・園に派遣し、学習活動を通じて、子どもたちの異文化理解を深め、英語学習に対する意欲・関心を高めるとともに、英語に慣れ親しませ、基礎的なコミュニケーション能力の基礎を育成する。 ・英語教育に関する教職員対象の研修会や担当者会を開催し、英語力や指導力の向上を図る。 					
複数年度における事業の進捗度等	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの質の向上を図るため、民間派遣契約について見直した。 ・現在、9人のALTを配置しているが、小学校英語教育が拡充される新学習指導要領が全面実施となるため、ALTを増員していく。 					
検討課題	<p>学習指導要領の改訂において、現在、小学5年生から行っている外国語活動が小学3年生からに拡充される。小学校中学年においては音声に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養い、高学年では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎的能力を養い、中学校英語教育へと繋げていくことが求められている。英語によるコミュニケーション能力を身につけていくため、指導助手を増員し、外国語教育を支援する体制の充実が課題となっている。</p>					
28年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)により1人、市直接雇用により3人、民間派遣契約により5人、計9人のALTを幼稚園に16回、小学校に756回、中学校に881回、計1,653回派遣した。 ・「Can Do リスト」を全中学校において作成した。 ・英語を使用する機会を創出し、英語学習の意欲を高めるため、イングリッシュキャンプを実施した。 					
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語教育が拡充される新学習指導要領が、全面実施となる平成32年度に向けて、ALT拡充の年次計画をたてる。 ・ネイティブスピーカーに限らず、英語に堪能な者を含め、優れた人材を計画的・継続的に確保していくなど、費用対効果の高い方策を模索する。 					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	2	
事業名		学力向上推進事業			評価	平成28年度	
担当課		学校支援課	事業年度	平成26年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	6,699 千円	平成28年度決算	10,013 千円	平成29年度予算	9,801 千円
事業の目的		幼稚園・小学校・中学校と家庭や地域が連携し、就学前から小学校・中学校までの発達段階に応じて「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」を図ることをめざす。					
事業の内容		全国学力・学習状況調査等を活用し、その分析結果から目標や課題の設定を行い、それらの解決・達成に向け検証改善サイクルを確立し、保護者、地域住民などとともに課題解決に向けた取組を進める。					
複数年度における事業の進捗度等		<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に研究実践を進めるため、実践校区指定の年次計画を立てた。 ・全国学力・学習状況調査の分析結果から松阪市の子どもたちの課題を整理し、解決に向けた方針をリーフレット等において家庭や地域に発信し、基本的な生活習慣、学習習慣の確立などの取組を全市的に進める。 ・「本居宣長さんの教え、5つのチャレンジ」を作成し、全市的な取組として進めた。 					
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> ・松阪市における平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について、小学校は、国語B、算数A、算数Bにおいて、三重県及び全国の平均正答率を上回った。また、中学校は、各分野で三重県及び全国の平均正答率を上回るまでには至らなかったが、昨年度と比較し、数学A、数学Bにおいて、三重県及び全国の平均正答率に迫ることができた。今後も継続して、松阪市教育委員会、学校、家庭、地域が一体となって、それぞれの役割を果たしながら、松阪市の児童生徒の学力の向上に取り組んでいかなければならない。 					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・殿町中学校区と中部中学校区において、幼小中の連携教育の実践研究を進め発表した。 ・松阪市標準学力調査(小2、小3、小4、小5、中1、中2)を実施した。 ・学校(園)に授業力向上アドバイザーと教育アドバイザーを計119回派遣した。 ・指導主事を校内研修会に小中学校152回、幼稚園20回派遣し、教員の指導力や授業力の向上を図った。 ・「本居宣長さんの教え、5つのチャレンジ」を作成し、全市的な取組として進めた。 ・学級経営マイスターを第二小学校に年3回派遣し、示範授業や校内研修会を実施し、学力向上に向けて、児童生徒が安全で安心して学ぶことができる学級づくりや主体的・意欲的に学ぶ授業づくり等、学ぶ土台作りについて教職員が学ぶことができた。 ・学力向上プロジェクトチームを位置付け、全国学力・学習状況調査結果の分析や先進事例を元に、各学校における学力向上に向けたきめ細やかな取組について立案できた。 					
今後の方向性・改善案		<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場において、標準学力調査活用の徹底や学力向上プロジェクトチームがまとめた「児童・生徒の学力向上をめざして」に示した取組が定着するように、研修会を行ったり、授業力向上アドバイザーを派遣することが、事業効果をより高めるものと考える。 ・優れた実践者や先進地の実践について、教職員が直接触れる機会を充実する。 					

評価シート

点検・評価対象テーマ	【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】				番号	3
	【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】					平成28年度
事業名	教職員研修事業				評価	B
担当課	学校支援課 (子ども支援研究センター)	事業年度	平成17年度～継続中			
予算・決算	平成27年度決算	1,292 千円	平成28年度決算	1,183 千円	平成29年度予算	1,061 千円
事業の目的	保育士及び教職員の指導力向上を図ることにより、幼児児童生徒の園・学校生活での満足度を高め、地域・保護者の信頼を得る。					
事業の内容	保育士及び幼稚園・小中学校の教職員等を対象に、今日的課題やニーズに沿った内容で、日常の保育教育実践や研究、あるいは保育教育実践上の問題解決に役立つ研修の場を提供する。 教科・領域指導研修、教育課題別研修、専門研修、教育講演会等(全35講座)					
複数年度における事業の進捗度等	平成23年度より、保・幼・小・中の連携を大事にする視点から、前年度までの幼稚園・小中学校教職員対象の「教職員研修事業」と、保育士及び幼稚園・小学校教職員対象の「乳幼児教育研修事業」を統合し、本事業に一本化して実施している。					
検討課題	当センター研修講座以外にも、市や県、国の指定研修等、多くの研修が、夏季休業中を中心に実施されている。教職員の出張等の重なりから、自主研修としての研修参加が難しい状況が生じている。講座数を見直すとともに、自らの専門性を高めるため、自主的・主体的に学び続けることへの意識向上を図れるよう、講座内容の充実に向けたさらなる取組が必要である。今後もニーズに合った研修が開かれているか、参加体制などについて、常に検証を進めていく。					
28年度の取組	講座の区分を「教科・領域指導研修」、「教育課題別研修」、「専門研修(担当者の専門領域について学ぶ)」とするとともに、実技や実習、ワークショップ型等のより実践的な研修方法を重視した研修講座の構築を行い、35講座を実施した。 ・延べ受講者数 目標値:3,100人以上 実績値:2,913人 ・参加者の受講満足度 96.1%					
今後の方向性・改善案	松阪市における今日的課題や講座アンケートの結果等を分析し、保育士や教職員のニーズに合ったより実践的な研修方法を重視した講座構築に努めていく。また、それぞれの部署と連携を図り、それぞれが企画する研修を整理し、教職員が自主研修として参加しやすい環境づくりに努める。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ	【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】				番号	4
	【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				評価	平成28年度
事業名	教育相談事業					A
担当課	学校支援課 (子ども支援研究センター)	事業年度	平成17年度～継続中			
予算・決算	平成27年度決算	3,463 千円	平成28年度決算	3,492 千円	平成29年度予算	3,778 千円
事業の目的	子どもたちの健やかな成長を願い、心や生活上で悩みを抱えた幼児児童生徒及びその保護者・教職員等関係者への相談を行うことにより、個々の課題解決に向けての歩みを支援する。					
事業の内容	<p>幼児児童生徒の生活や心の問題について、それぞれの状況やニーズに応じた相談を実施し、子どもや保護者・教職員等への支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談…相談員(所員)による面接相談と電話相談 ・カウンセラー相談…臨床心理士によるカウンセリング 					
複数年度における事業の進捗度等	相談支援をより有効的に進めるため、平成23年度から、「教育相談事業」と平成17年度から開始した専門家による「心のカウンセラー相談員配置事業」の相談事業を統合し、本事業に一本化した。					
検討課題	<p>相談者のニーズに応じた効果的な支援を進めていくために、相談申込み時の早期対応や、継続的・定期的な相談が実施できるよう、相談体制の充実を図っていく必要がある。</p> <p>子どもたちの抱える心の課題やその背景は、複雑・多様であり、専門的な視点からの見立てや支援を必要とするケースが増加している。カウンセラーとの連携を密にして、適切な相談支援を進めていくとともに、担当者のスキルアップのための研修の機会を確保していく。</p>					
28年度の取組	<p>臨床心理士のカウンセラー相談を希望するケースが多いことから、教育相談担当者とカウンセラーの連携をより密にすることに配慮しながら、支援を進めた。また、遊戯療法の用具等の環境面の充実を図った。</p> <p>相談延べ件数 1,169件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 652件(面接相談299件、電話相談353件) ・カウンセラー相談 517件、166回実施 					
今後の方向性・改善案	相談者のニーズや土曜授業を実施していくことを考慮して、「カウンセラー相談の回数増」「夕方相談枠の拡充」等、相談体制の充実を図るとともに、引き続き、各種研修会や担当者会等へ積極的に参加することにより、教育相談担当者の力量アップを図る。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】			番号	5
事業名		私立幼稚園就園奨励費補助金			評価	平成28年度
担当課		こども未来課	事業年度	平成17年度～継続中		A
予算・決算	平成27年度決算	26,792 千円	平成28年度決算	28,637 千円	平成29年度予算	30,000 千円
事業の目的	家庭の所得状況に応じて保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、公・私立幼稚園間の保護者負担の較差の是正を図り、幼稚園教育の振興に資する。					
事業の内容	市内に住所を有し、子ども・子育て支援法に基づかない私立幼稚園に通園する園児の世帯の所得状況に応じて補助金額を計算し、「入園料」「保育料」を減免している私立幼稚園に対して補助を行う。					
複数年度における事業の進捗度等	平成27年度から国の基準に合わせ、非課税世帯だけであった補助対象者を、課税世帯まで枠を広げた。					
検討課題	平成27年度から国の基準に合わせたことにより補助対象者が増え、事務量が急増している。しかし、子ども・子育て支援新制度に移行した私立幼稚園に対しては適用されないため、対象者の多くを占める市内私立幼稚園2園の新制度移行の方向性を慎重に見据え、事務量軽減のための方策を考える必要がある。					
28年度の取組	平成28年度は、国の補助限度額変更に合わせて、階層区分ごとの多子軽減の適用条件やひとり親世帯等の補助限度額の変更を行い、補助金額の拡充を行った。 保護者の申請時の負担を軽減していくため、松阪市で市民税が課税されている世帯については、同意の上、補助金申請時の必要書類であった市民税所得・課税証明書の添付を省略した。					
今後の方向性・改善案	私立幼稚園に通園する世帯の経済的負担を軽減するため継続していくが、申請時の負担をなくしていくため、申請方法についてはさらに簡素化を図っていく。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】			番号	6	
事業名		幼稚園施設管理運営事業			評価	平成28年度	
担当課		こども未来課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	227,149 千円	平成28年度決算	244,862 千円	平成29年度予算	306,689 千円
事業の目的		幼稚園教育要領『幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条(※)に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする』との趣旨に基づき、適切に幼稚(児)園の維持管理・運営を行うことを目的とする。 ※学校教育法第22条…幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。					
事業の内容		幼稚園の管理運営に必要な、賃金、消耗品費、光熱水費、委託料、借上料等の必要経費を計上。					
複数年度における事業の進捗度等		平成29年度からの3歳児保育開設に向けて、実施可能園の選定を行った。 園児が少なく、教育としての集団保育が成り立たない園については、地元と協議を行った。					
検討課題		園児数が減少し一定の集団規模を確保できず、集団としての教育が成立しにくい状況が出ていることから、休園基準を平成31年度までに段階的に「総園児数15人未満」とし、実施していく必要がある。 また、平成29年3月に「松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針」を策定し、幼稚園だけでなく保育園も併せて再編・統廃合を考え、「認定こども園」も含め検討していく。					
28年度の取組		平成28年度に行った、平成29年度の園児募集時、3歳児保育実施園を1園増やし13園とした。 また、平成29年度の園児募集では1園休園としたため、平成29年度の保育実施園を19園とした。					
今後の方向性・改善案		市街地の幼稚園では、全ての園で3歳児保育を実施していないため、郊外の幼稚園に通う子どももいることから、周辺保育園等とも協議しつつ、既存の幼稚園施設で3歳児保育の実施が可能な園は、3歳児クラスの新設を進めていきたい。 また、「松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針」に基づき、施設の再編・統廃合を進めていく。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	7	
事業名		特別支援教育推進事業			評価	平成28年度	
担当課		学校支援課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	58,822 千円	平成28年度決算	76,648 千円	平成29年度予算	84,524 千円
事業の目的	小中学校において障がいのある児童・生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上のサポートを行ったりする「学校生活アシスタント」「メディカルサポートアシスタント」を必要な学校に配置し、障がいのある児童生徒への支援を充実し、インクルーシブ教育の推進を図る。						
事業の内容	特別支援学級や通常の学級に在籍する重度障がいやLD、ADHD、高機能自閉症等の特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践や生活面で人的支援を行う「学校生活アシスタント」「メディカルサポートアシスタント」を配置し、適切な指導及び支援を実施する。						
複数年度における事業の進捗度等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から育ちサポート室が福祉部へ移管されたことにより、特別支援教育の体制整備に係る業務(メディカルサポートアシスタント3人)と教育支援委員会等に係る業務(委託金)が当該事業へ移管された。 ・平成15年度に介助員の配置としてスタートし、平成19年度以降は、「学校生活アシスタント」と改名し、事業を展開している。 ・きめ細やかな支援体制を確立するためには、「学校生活アシスタント」の量的充実も重要であるが、質的向上も重要となる。 ・学校生活アシスタント研修会を充実し、支援の質の向上を図っていく。 ・きめ細やかな支援体制を確立するため、学校生活アシスタントの数を平成27年度の66名から平成28年度は75名に増員した。 ・臨床心理士等を講師に招き研修会を2回実施し、支援の質の向上を図った。 						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童生徒数が平成20年度180名であったのに対し、平成28年度は354名と増加し、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒数も年々増加傾向にある。 ・子どもの実態や保護者の願いも多様化しているため、個に応じた支援のあり方も多岐にわたってきている。 ・このような学校の実情に応じて「学校生活アシスタント」「メディカルサポートアシスタント」を配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズを把握し、一人ひとりに応じた支援体制を確立し、学校生活や学習上の困難を改善していく必要がある。 						
28年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や育ちサポート室と連携を図り、必要とする学校の状況を把握し「学校生活アシスタント」「メディカルサポートアシスタント」を配置した。 ・学校生活アシスタント研修会を4月と10月に実施し、子どもを理解・支援するに当たっての留意点等の講演を行い、支援の質の向上を図った。 ・各学校においても、学校長等による指示・アドバイスにより、障がいのある児童・生徒への支援の充実を図った。 						
今後の方向性・改善案	支援の充実には、人数の確保、支援の質の向上が大切であるが、支援の必要な子どもの数は増加し、支援の内容は多様化しており、医療的な支援や看護師なども必要となっている。障害者差別解消法施行に伴い、児童生徒の教育的ニーズは一層高まることが予想され、学校と家庭、関係機関と綿密な連携を図り、子ども発達総合支援センター 育ちサポート係、通級教室も含め、個に応じた支援のあり方を求め、きめ細やかな支援体制を確立する必要がある。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	8	
事業名		いじめ等対策事業			評価	平成28年度	
担当課		学校支援課	事業年度	平成21年度～継続中		B	
予算・決算		平成27年度決算	12,916 千円	平成28年度決算	13,294 千円	平成29年度予算	13,717 千円
事業の目的		<p>児童生徒の悩みやストレス等を早期に発見し、心のケアを行うとともに課題の解消に向けた取組を支援する。 また、児童生徒の実態を適時適切に把握し、いじめや不登校の未然防止に努めるとともに、指導の充実を図る。</p>					
事業の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の相談活動をつなげるため、小中兼務型相談員（ハートケア相談員）を中学校区を単位に派遣する。 ・学級満足度尺度調査（Q-U）を実施し、学校生活の基盤となる学級の実態を把握し、指導に生かす。 ・司法福祉相談を実施し、指導困難な事例について、対応を図る。 ・カウンセリングマインド向上研修（中学校養護教諭対象）を実施する。 					
複数年度における事業の進捗度等		<p>ハートケア相談員を複数年、同一の相談員を配置することで、児童生徒だけでなく、保護者にも安心感を与え、小中連携にも効果をあげている。 Q-Uの分析について研修をさらに深め、個々の児童生徒の実態把握や、学級の状態を把握することにより、いじめや不登校を早期に発見するとともに、早期対応に役立てていく。</p>					
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為は減少し、落ち着いてきているが、不登校児童生徒数が増加傾向にある。 ・不登校児童生徒数が増加している要因について分析し、学校生活に対して不適応感を感じている子どもたちへの支援体制を充実するとともに、子ども支援研究センターや育ちサポート室等の関係機関と密接に連携し、チーム支援を行っていくことが重要となっている。 ・いじめ問題について、社会性を育むなど未然防止に努めるとともに、積極的に早期発見し、早期対応に努め、いじめを許さない学級づくりを更に進めていく必要がある。 ・情報モラルの指導を充実し、インターネット上でのトラブルを減少させていく必要がある。 					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・ハートケア相談員9名を8中学校27小学校に配置し、年間6,588件の相談を受けた。 ・Q-Uは43校（児童生徒数9,611人）で実施し、いじめの未然防止や学級づくりに活用した。 Q-U満足群：目標値 60%以上 実績値 66.4% ・カウンセリングマインド向上を図るため、同志社大学教授を講師に招き、事例検討会を行った。 					
今後の方向性・改善案		<p>各学校ではQ-U等を活用し、問題行動の未然防止をめざして学級集団づくりを進め、暴力行為の減少には効果が現れてきているが、不登校児童生徒数は、平成24年度以降、増加傾向に転じている。近年、特別支援学級在籍の児童生徒数をはじめ、学校集団生活を行う上で個別の支援を要する児童生徒の数は増加の一途を辿っている。不登校児童生徒数の減少のため、ソーシャルスキル等を身につけ社会性を育むとともに、相談体制や支援体制を充実することが重要となっている。</p>					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	9	
事業名		地域の教育力活用推進事業			評価	平成28年度	
担当課		学校支援課	事業年度	平成27年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	3,975 千円	平成28年度決算	3,897 千円	平成29年度予算	5,959 千円
事業の目的		<p>地域住民等の参画による地域の実情に応じた取組(学校評議員制度、コミュニティ・スクール、学校支援地域本部事業)を有機的に組み合わせて、学校、家庭、地域が連携協力しながら、一体となって地域の子どもたちを育てていくことにより、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てる。</p>					
事業の内容		<p>校園長の権限と責任の下、保護者及び地域の住民の学校運営への参画の促進及び連携強化を進めることにより、幼児・児童生徒を中心とした学校教育の充実を図り、地域に開かれた信頼と誇りのもてる学校づくりを推進する。</p>					
複数年度における事業の進捗度等		<p>コミュニティ・スクールの取組を推進し「地域とともにある学校づくり」に努めているところである。平成25年度より、鎌田中学校、第四小学校、港小学校において学校運営協議会を設置し、現在では、飯高中学校、宮前小学校、香肌小学校へと拡充している。新たに28年度は天白小学校、29年度は米ノ庄小学校、鶴小学校、小野江小学校、朝見小学校が導入に向けての準備を行っている。また、コミュニティ・スクールの取組のみならず、今後も、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進めるとともに学校支援ボランティアの活動を充実していきたい。</p>					
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のボランティアが全体の8割以上を占めていることから、小学校での支援が中学校につながっていくことが望まれる。 ・コミュニティ・スクールの取組を保護者や地域住民等に、広報活動等を通して、さらに周知を図る必要がある。 					
28年度の取組		<p>学校支援本部事業の取組は、学校支援ボランティアの活動として、市内各学校園を対象に展開し6年目になるが、初年度、登録いただいたボランティアの方が488人であったものが、平成28年度は1,552人(目標値:1,500人以上)と増加した。内容として、安全支援ボランティア、読書支援ボランティア、学習支援ボランティア等を中心に本事業を展開した。また、地域未来塾の取組は、特に、第四小学校に土曜教育コーディネーターを配置し、住民協議会の教育部会が主体となり、学力補充のためすべての児童を対象(自由参加)とした「土曜学級」が月2回ほど実施された。</p> <p>学校評議員制度については、全小中学校において、学校・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営の改善に向け、児童生徒の実態や地域の実態に応じた取組を実施した。</p> <p>コミュニティ・スクールの取組については、鎌田中学校区の3校が連携した組織による運営体制で、学校運営協議会がスタートし5年目になる。また、飯高中学校区の3校においては、27年度より研究を始め、29年度に学校運営協議会をスタートさせるため研究を進めた。</p>					
今後の方向性・改善案		<p>平成27年度より4つの事業を統合し、「地域の教育力活用推進事業」として事業を進めている。必要に応じて調査も行い、予算の状況の確認だけではなく、事業実施における課題等を学校からヒアリングを行うなどの対応が必要である。また、校長会や研修会等を活用し、学校に向けて先進事例や優良事例の発信が必要である。</p>					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	10	
事業名		新たな学びの創造事業			評価	平成28年度	
担当課		学校支援課	事業年度	平成26年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	37,092 千円	平成28年度決算	48,672 千円	平成29年度予算	51,081 千円
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末や電子黒板等のICT機器を活用した、主体的・協働的な学びの研究や次期学習指導要領を見据えた授業活動に取り組むことを目指す。 ・教員のICT活用能力、指導力を高め、ICT機器を活用した授業が展開されることにより、児童生徒の学習意欲の向上、学力の向上を目指す。 ・ICT教育にかかわる実践や研究のために、教育委員会の支援体制が充実することを目指す。 					
事業の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・松阪市教育ビジョンで掲げている情報活用能力や情報モラルを育む「情報教育」、教科指導における「情報通信機器の活用」、「校務の情報化」の三つの側面から、取組を推進し子どもたちの未来社会を生きる力を育む。 ・平成23年度に総務省「フューチャースクール推進事業」、文部科学省「学びのイノベーション事業」の委託を受けてタブレット端末等のICT環境を整備した三雲中学校と、平成26年度に整備した殿町中学校、飯高中学校のICT環境の維持・構築を進める。 ・市内小中学校のパソコン教室の整備・更新を進める。 ・これらの環境をよりよく活用し、支援していくために、ICT支援員2名を学校に派遣する。 					
複数年度における事業の進捗度等		三雲中学校、殿町中学校、飯高中学校において、システムや機器類の構築を継続的に進めつつ、協働学習などの実証研究の取組を進めている。また、学校の取組として研修体制も確立されてきている。					
検討課題		多額の費用がかかる事業であるため、どのように予算を確保しつつ、どのように各校へ展開していくのが課題となる。そのために、教育の情報化に係る事業費を一元管理し、調達機器の精査や効率的な運用、適正配置を考慮し、よりよい学びにつなげていく必要がある。					
28年度の取組		主体的・協働的な学びを通じて、児童生徒の学習意欲の向上や学習内容の理解が深まるなどの効果が表れてきている。導入3校における研究発表会では、教育委員会と学校とが連絡・連携を密にして、現場の意見や状況を把握しながら、情報機器を活用した授業づくりにおける学力の向上などの研究成果を発信した。					
今後の方向性・改善案		平成23年度からの研究により、事業成果は多く、授業における活用事例も多く示すことができている。また、全国各地からの視察が相次ぐなど、全国的な評価は高い。 今後も実証研究を進め、有効性や効果の検証を踏まえながら、教育の情報化の取組を行っていくために、事業の評価を行いながら、今後の方向性を見極めていく。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	11
事業名		外国人児童生徒いきいきサポート事業			評価	平成28年度
担当課	人権まなび課	事業年度	平成19年度～継続中			A
予算・決算	平成27年度決算	14,466 千円	平成28年度決算	15,145 千円	平成29年度予算	17,058 千円
事業の目的	外国人児童生徒を対象に、学校生活への適応支援及び初期の日本語指導等を行うことにより、学校生活での不安を解消するとともに、高等学校等への進学や就職など、中学卒業後の進路に関する支援を行う。					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」の運営。 外国人児童生徒の在籍する小中学校へ、巡回による指導補助者(母語スタッフ)の派遣。 外国人児童生徒及び保護者のための進学及び就職に関する進路ガイダンスの開催。 					
複数年度における事業の進捗度等	市内在住の母語スタッフ13人及び日本語指導員等5人を雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において学校生活への適応支援及び日本語学習支援を行った。					
検討課題	日本語指導の必要な外国人児童生徒の増加に対する今後の適応支援のあり方。					
28年度の取組	<p>市内在住の母語スタッフ13人及び日本語指導員等5人を雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において、学校生活への適応支援及び日本語学習支援等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期適応支援教室「いっぽ」…通級児童生徒数 46人 うち修了児童生徒数 41人 次年度継続通級4人 H28年度中に市外転出1人 小中学校等巡回指導補助…小学校 18校、中学校7校、幼稚園3園 支援状況 1,269回、6,024時間 進路ガイダンス…開催回数 1回、参加者数 130人 (児童生徒34人、保護者27人、教育関係者69人) 外国人児童生徒就学実態調査…調査対象32人(28世帯) 不就学2人、帰国・転居22人、留守不明6人、通学(ブラジル人学校)2人 					
今後の方向性・改善案	日本語指導を必要とする外国人児童生徒数は増加の一途をたどっており、在籍する学校の広域化も進んでいる。このため、学校生活への適応支援及び日本語学習支援はますます必要となっており、在籍状況に応じた支援の充実を図る。そのためにも、ボランティアスタッフの充実を図っていくとともに母語スタッフの効率的な派遣を進めていく。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	12
事業名		外国人児童生徒受入促進事業費			評価	平成28年度
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度～継続中			A
予算・決算	平成27年度決算	4,437 千円	平成28年度決算	4,156 千円	平成29年度予算	5,133 千円
事業の目的	外国人児童生徒の在籍の多い小中学校をセンター校(久保中学校、第二小学校、第五小学校)、準センター校(殿町中学校、徳和小学校、花岡小学校、幸小学校)に指定し、三重大学、愛知淑徳大学等関係機関の指導、助言、協力を受け、外国人児童生徒の受入体制や日本語指導の充実及びアイデンティティの確立のため、調査研究を行う。					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会(事業計画の立案、検討、課題改善策の協議)の開催 ・プロジェクト会議(具体的な取り組みについての計画、検討、改善等の協議)の開催 ・ネットワーク会議(取り組み内容や教材などを全市的に共有)の開催 ・担当者会議の開催(センター校、準センター校の情報交換) ・センター校・準センター校等への指導補助者(母語スタッフ)の配置 ・就学前支援教室「ふたば」の開催 ・多文化理解授業の実施 ・フォトストーリーづくりの実施 ・日本語指導法連続講座 					
複数年度における事業の進捗度等	日本語指導の必要な外国人児童生徒の在籍が増加、広域化する中で、小中学校での受入体制の整備、学校における日本語指導の充実のため、課題の整理を行い、国際教室の運営の充実、教材等の作成など、センター校、準センター校において取り組んだ。さらに、指導の改善等調査研究を進めるとともに、センター校、準センター校の取組の成果を松阪市全体に広げていく。					
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた教科指導能力の向上等、進路保障に向けた取組の充実 ・アイデンティティ確立のための取組の充実 					
28年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会の開催(開催数:2回):事業計画の立案、課題等の解決策の協議等を行った。 ・プロジェクト会議の開催(開催数:3回):具体的な取組についての計画等を協議した。 ・ネットワーク会議の開催(開催数:3回):センター校等の取組を全市的に情報共有するとともに研修会を実施した。 ・担当者会議の開催(開催数:7回):センター校・準センター校の担当者が情報交換を行った。また、うち2回は研修会を実施した。 ・JSLカリキュラムに基づく「わかりやすい授業づくり」の公開授業を2回(久保中、幸小)開催した。 ・小中学校指導補助の実施(513回 1,797時間 小学校12校・中学校6校・幼稚園3園):母語スタッフ10人により巡回による指導補助を行った。 ・就学前支援教室「ふたば」の開催(開催数:11回、参加幼児数:17人):次年度入学予定の幼児対象に小学校で学ぶための日本語学習や生活規律に関する支援や保護者への情報提供等を行った。 ・多文化理解授業の実施(開催数:1回、幸小学校全校児童468人):三重大学留学生2人から、各国の文化や生活について学んだ。 ・フォトストーリーづくりの実施(開催数:1回、参加児童生徒数:11人(満足度100%)):愛知淑徳大学の准教授及び学生の指導のもと、自分の夢や生活に関する写真にナレーションをつける手法で映像にまとめ、自分を発見し表現することで、アイデンティティの確立を図った。 ・日本語指導法連続講座(開催日:8月8日・8月9日、参加者数:のべ51人):小中学校教職員・初期適応支援教室「いっぽ」のボランティアを対象に、愛知教育大学講師を迎えて「日本語指導のあり方とその実践」について学んだ。 					
今後の方向性・改善案	センター校・準センター校の取組の成果を松阪市全体に広げるとともに、日本語指導力及び教科指導力の向上のための研修会の充実を図る。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	13	
事業名		児童生徒安全対策支援事業			評価	平成28年度	
担当課		学校教育課	事業年度	H17年度～継続		A	
予算・決算		平成27年度決算	4,744 千円	平成28年度決算	4,117 千円	平成29年度予算	4,806 千円
事業の目的		地域や保護者と連携し、学校や通学路における事故や犯罪の未然防止を図り、児童生徒の安全確保に努め、保護者の負担軽減を図る。					
事業の内容		交通安全帽子、ヘルメットそれぞれの品目ごとに入札を行い、購入したものを各学校に配布する。小学校については、毎年、各学校に意向調査し、交通安全帽子かヘルメットのどちらかを配布している。					
複数年度における事業の進捗度等							
検討課題		毎年度、入札により発注を行っている。受注する業者によって取り扱うメーカーが異なるため、学年毎に帽子やヘルメットが異なる場合があり、同じ品物で統一することができない。					
28年度の取組		交通安全帽子購入費（小学校1年生 19校/36校 936個） 388,177円 通学用安全ヘルメット購入費（小中学生2,388個） 3,729,065円 配付対象〔小学校1年生、4年生〕西黒部、掃水、漕代、阿坂、南、豊地、中川、豊田、中原、天白、鶴、小野江、米ノ庄、柿野、粥見、香肌、宮前 17校/36校〔中学校1年生〕全11校					
今後の方向性・改善案		児童生徒の安全対策を図るため今後も継続して交通安全帽等の配付を実施していく。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	14	
事業名		学校給食単独調理場備品等整備事業			評価	平成28年度	
担当課		給食管理課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	22,355 千円	平成28年度決算	21,829 千円	平成29年度予算	23,735 千円
事業の目的	学校給食単独調理場における作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。						
事業の内容	衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 ＜対象となる単独調理場＞ 本庁管内24小学校(単独調理場)						
複数年度における事業の進捗度等	年次計画により、空調設備及び食器洗浄機並びにコンベクションオープン、業務用冷凍冷蔵庫の整備を行った。						
検討課題	施設の老朽化とともに、主要な大型備品が設置から20年以上を経て更新時期を迎えている。将来的な学校の統廃合を見据えた備品整備が必要である。						
28年度の取組	空調設備設置(山室山) 食器洗浄機(山室山) コンベクションオープン(朝見・機殿・第四・幸) 業務用冷凍冷蔵庫(7校) など						
今後の方向性・改善案	安全・安心な学校給食を提供するため、衛生環境及び作業能率向上につながる備品等の整備を図る。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	15	
事業名		学校給食センター備品等整備事業			評価	平成28年度	
担当課		給食管理課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	8,914 千円	平成28年度決算	15,366 千円	平成29年度予算	9,860 千円
事業の目的	学校給食センターにおける作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。						
事業の内容	衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 <対象となる学校給食センター> 学校給食センターベルランチ・嬉野学校給食センター・三雲学校給食センター・飯南学校給食センター・飯高等学校給食センター(宮前・森調理場)						
複数年度における事業の進捗度等	年次計画により、飯南学校給食センターへ空調設備の整備を行った。						
検討課題	飯南学校給食センターの建設時(平成7年)に設置された大型備品が更新時期を迎えている。飯高等学校給食センターとの統合に向けた備品整備が必要である。						
28年度の取組	消毒保管庫ほか(嬉野) フードスライサーほか(三雲) 牛乳保冷庫ほか(飯南) ガスフライヤーほか(飯高) ホワイトボード(ベルランチ) など						
今後の方向性・改善案	安全・安心な学校給食を提供するため、衛生環境及び作業能率向上につながる備品等の整備を図る。						

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	16	
事業名		こどもまつり大会事業			評価	平成28年度	
担当課		生涯学習課	事業年度	昭和53年度～未定		A	
予算・決算		平成27年度決算	1,712 千円	平成28年度決算	1,899 千円	平成29年度予算	2,135 千円
事業の目的		創作や遊びを通じて、子どもたちは家族との絆を深め、また友だちとの親睦交流を図ることで、子どもたちの健やかな成長を期待する。					
事業の内容		創作や遊びを通じて子どもたちが家族や友だちと1日ゆっくり過ごすことができる催し物を「ステージ」「たべる」「つくる」「あそぶ」の各ブースを設けて提供する。 (中部台運動公園芝生広場(雨天時:さんぎんアリーナ)において、ステージでは子どもたちの楽器演奏やダンスパフォーマンス、各ブースでは各種工作やゲーム等、実行委員である各関係機関・団体の運営により、子どもたちの楽しめるまつり開催に取り組んでいる。)					
複数年度における事業の進捗度等		創作や遊びを通じて子どもたちが家族や友だちと1日楽しく過ごすことができる催し物を提供できている。また学生によるボランティア参加も呼びかけており、青少年の育成の場ともなっている。					
検討課題		松阪こどもまつりは40回を迎え、市民に定着しており、事業費削減の中でも、実行委員の努力により多数の方に来場していただいているが、その反面、駐車場の許容能力に限界が近づいており対応を検討していく必要がある。また、会場となっている中部台公園芝生広場は、毎年この時期に芝生の張替え養生期間となり、一部使用できない箇所があり、会場レイアウトで苦心している。					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員会:4回開催 ○日 時:平成28年4月24日(日) 午前10時から午後3時まで ○場 所:中部台運動公園芝生広場 ○参加者:19,000人 ○内 容:ステージ・たべる・つくる・あそぶ各コーナーの開設 					
今後の方向性・改善案		中部台運動公園は、松阪市内で最も大きい芝生公園で、駐車場も確保しやすい環境にある。会場及び駐車場を収容的に見て市内にこれ以上大きな会場は見当たらず、参加者も会場に見合った来場があるため、継続使用していきたい。 また、子どもたちの安全確保について、まつり開催における重要な課題であり、実行委員会内において今後とも協議を進めていきたい。 今後は、親子で参加できる催しを増やしていく必要がある。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	17	
事業名		青少年健全育成事業			評価	平成28年度	
担当課		生涯学習課	事業年度	平成17年度～未定		B	
予算・決算		平成27年度決算	6,434 千円	平成28年度決算	6,486 千円	平成29年度予算	7,557 千円
事業の目的		地域・学校・家庭が連携して、青少年と大人が一体となり推進することにより、心身ともに豊かな成長のための支援と青少年の健全育成を図る。					
事業の内容		青少年の健全育成を図るため、行政と「青少年育成市民会議」及び「各地区健全育成会」が一体となって、家庭教育講座や講演会等の健全育成事業を推進する。					
複数年度における事業の進捗度等		松阪市青少年育成市民会議においては、平成23年度より市内5市民会議を一本化し、青少年健全育成事業の効率化を図っている。 市内青少年育成団体と協力して「青少年育成のつどい講演会」を開催。青少年に関わる大人向けの講演内容で、満足度90%以上を目標とし、28年度は満足度85%の実績となった。					
検討課題		青少年健全育成の事業は、行政の一方的な指導・推進では限界があり、家庭・地域・行政の連携が重要である。 これを実践するためには、各地域に青少年健全育成の事業を推進・指導する意欲と能力を持った「指導者」の養成が必須となる。					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ○青少年育成のつどい講演会の開催 平成28年12月8日(木) 午後7時から午後8時30分まで 農業屋コミュニティ文化センター ○家庭教育講演会・子ども体験教室等の開催 ○市内22育成会にそれぞれの地域にあった健全育成活動を業務委託 ○松阪市青少年育成市民会議の活動を通じて健全育成事業及び「あいさつ運動」の推進として標語を募集し、優秀作品を使用したミニ懸垂幕を市内小中学校等へ配布し啓発を図った。 					
今後の方向性・改善案		青少年健全育成の事業については、社会全体で取り組む必要があると認められる。特に地域での取り組みがポイントと考えられる。そのための指導者養成や各地域の自主性・自律性を高めることが具体的方策となる。 また、子どもの健全育成のために今後も事業を推進していくが、関係団体等の理解を得て、さらに一層の事業精査、事務改善を図っていく。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	18	
事業名		新成人のつどい開催事業			評価	平成28年度	
担当課		生涯学習課	事業年度	平成17年度～未定		A	
予算・決算		平成27年度決算	480 千円	平成28年度決算	2,446 千円	平成29年度予算	557 千円
事業の目的		新成人を祝い、大人としての責任と自覚を促す場として、一人ひとりが心に残る新成人のつどいを開催する。					
事業の内容		前半は市長祝辞、新成人謝辞及び後半は、新成人による実行委員会の企画によるアトラクションの構成で開催し、新成人による実行委員会が企画運営する。 (新成人を中心としたメンバーが実行委員会を組織し、企画や運営、PRポスター作成などに、9月下旬から取り組む)					
複数年度における事業の進捗度等		新成人による実行委員会で企画・運営をし新成人のつどいを開催している。実行委員の応募が毎年少なく、学校から推薦された新成人に参加を依頼をしているが、承諾してもらえない新成人が少なく実行委員会を設置するのに苦心している。					
検討課題		新成人による実行委員の募集が毎年少なく、実行委員会を設置するのに苦心している。また実行委員会組織後においては、価値観の多様化もあり、実行委員が数多く話し合える場を設けることが重要である。しかし、実行委員のほとんどが学生である現状で、実行委員会出席への時間的制約と実行委員会開催会場の選定など場所的制約が継続的な課題となっている。					
28年度の取組		実行委員会:6回開催 日 時:平成29年1月8日(日) 午前10時～午前11時30分 場 所:さんざんアリーナ 対 象:平成8年4月2日～平成9年4月1日までに生まれた方 参加人数:1,324人(住民登録者数 1,553人) 住民登録者数に対して 85.25%					
今後の方向性・改善案		新成人のつどい実行委員にとって新成人のつどいを成功させることは大きな自信となり、また社会に目を向けることができる。 新成人OBや学校との連携等を強化することで、実行委員会の組織強化のために支援していきたい。また、開催当日に会場内に入らず、駐車場等にいる新成人が毎年多いため、新成人のつどい実行委員自らメガホンを持って、入場を促している。一定の効果があるため、今後も引き続き行っていきたい。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	19																									
事業名		図書館管理運営事業			評価	平成28年度																									
担当課		生涯学習課	事業年度	平成17年度～継続中		A																									
予算・決算		平成27年度決算	127,458 千円	平成28年度決算	127,534 千円	平成29年度予算	147,811 千円																								
事業の目的		図書館施設(松阪図書館・嬉野図書館)を適法・適正に管理し、施設利用者へのサービスの向上を図る。																													
事業の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度の導入、図書館コンピューターの利用により、図書館業務の効率化と迅速化を推進する。 ・高度情報化社会の多様なニーズに対応するため、蔵書等の充実を図る。 ・松阪市子ども読書活動推進計画により、ブックスタート事業やボランティアの協力を得て、「絵本の読み聞かせ」等を開催し、子どものための読書活動を推進する。 																													
複数年度における事業の進捗度等		指定管理者制度の導入による、(株)図書館流通センター(TRC)の管理業務委託は9年目を迎え、図書館業務の効率化と蔵書の充実等が図られるとともに、住民ニーズに応えるサービスの向上(満足度)に関して順調に達成しつつある。																													
検討課題		図書館の活動内容を、多くの市民に情報発信し、図書館の利用拡大に繋げていく。また、松阪図書館の経年劣化による施設の維持管理費及び松阪図書館改修計画の推進。																													
28年度の取組		<p>○平成28年度各図書館(室)における利用状況等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出冊数(冊)</th> <th>28年度末蔵書冊数(冊)</th> <th>利用者数(人)</th> <th>登録者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>540,615</td> <td>268,888</td> <td>129,589</td> <td>35,195</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>273,800</td> <td>133,881</td> <td>80,483</td> <td>22,935</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>14,702</td> <td>26,425</td> <td>4,238</td> <td>2,379</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>829,117</td> <td>429,194</td> <td>214,310</td> <td>60,509</td> </tr> </tbody> </table>						貸出冊数(冊)	28年度末蔵書冊数(冊)	利用者数(人)	登録者数(人)	松阪図書館	540,615	268,888	129,589	35,195	嬉野図書館	273,800	133,881	80,483	22,935	三雲図書室	14,702	26,425	4,238	2,379	計	829,117	429,194	214,310	60,509
	貸出冊数(冊)	28年度末蔵書冊数(冊)	利用者数(人)	登録者数(人)																											
松阪図書館	540,615	268,888	129,589	35,195																											
嬉野図書館	273,800	133,881	80,483	22,935																											
三雲図書室	14,702	26,425	4,238	2,379																											
計	829,117	429,194	214,310	60,509																											
今後の方向性・改善案		図書館で行うイベントや講座などを報道機関に積極的に提供し、子どもをはじめとした市民の読書活動を推進していく。また、学校図書室との連携を図っていく。施設の修繕については、担当課と指定管理者で協議を行い、対応していく。																													

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	20	
事業名		生涯学習振興事業			評価	平成28年度	
担当課		生涯学習課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	12,335 千円	平成28年度決算	12,564 千円	平成29年度予算	14,050 千円
事業の目的	住民の教養の向上、健康の増進等を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、定期講座の開設や講習会、講演会等を開催し、これらの公民館事業を通じて豊かな学習機会の提供を行う。						
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・45公民館で地域課題や住民ニーズに呼应した高齢者学級や女性学級等の連続講座や各種体験教室、伝承文化事業等を開催する。 ・公民館だよりを毎月作成し地域へ情報発信するとともに、全地区公民館へ対しても他館のたよりを配布し、市民への周知と、公民館相互の情報共有を図る。 ・市ホームページの「公民館趣味サークル概要」を適宜更新し、市民への周知を図る。 						
複数年度における事業の進捗度等	各公民館において、その時代や地域のニーズに応じた講座を開催し、事業を通じた地域の交流が図られている。						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の推進を図る上で地域住民との連携は不可欠であり、社会教育の本義から見ても地域の連帯感や一体感の高揚を目指すための企画立案が求められている。 						
28年度の取組	<p>公民館において、住民ニーズ等に応じた学習機会を提供するとともに、多様な教育環境の中で地域社会に参画できる人材の育成を目指して、各管内で講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習振興事業(松阪) 26館・講座数 357講座・開催日数 580日・受講者延数 17,986名 ○生涯学習振興事業(嬉野) 7館・講座数 184講座・開催日数 342日・受講者延数 4,231名 ○生涯学習振興事業(三雲) 5館・講座数 189講座・開催日数 494日・受講者延数 7,993名 ○生涯学習振興事業(飯南) 1館・講座数 32講座・開催日数 122日・受講者延数 1,272名 ○生涯学習振興事業(飯高) 6館・講座数 56講座・開催日数 336日・受講者延数 4,058名 						
今後の方向性・改善案	各公民館における、事業運営に関する方策や地域的に取り組むべき課題を包括的に把握するために、各地域ブロックごとのヒアリング等を行う必要がある。						

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	21	
事業名		市美術展覧会開催事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	2,654 千円	平成28年度決算	2,612 千円	平成29年度予算	3,223 千円
事業の目的		美術文化の祭典として、市民の創作意欲を高めるとともに、美術に対する理解を深め、美術水準の向上を図る。					
事業の内容		松阪市で唯一の公的な美術展覧会として、「絵画」「彫刻・工芸」「写真」「書道」の4部門、会期2部制で開催する。また、部門に関連したワークショップを開催し、次代の松阪市を担う子どもたちが、芸術に関心を持つ機会を提供する。					
複数年度における事業の進捗度等		<ul style="list-style-type: none"> ・松阪市美術展覧会 昭和35年より開催され、平成28年度で57回目を迎えた。松阪市美術展覧会運営委員会で検討し、次世代の人材発掘ができるよう、平成24年度より出品料(500円)を高校生以下無料とした。また、平成26年度より絵画部門の審査において、水墨画も審査できる専門性を持った審査委員を加入し、出品作品の多様化に対応した。 ・こどもワークショップ 市制施行10周年記念事業として、平成27年度に児童向けのワークショップを開催。子どもたちに芸術に触れるきっかけづくりを行った。 					
検討課題		出品者の年齢が高齢化しており、抜本的な改善として、文化芸術を志す生徒の裾野を広げるため、若年層を対象としたきっかけづくりの場を提供し、長期的な人材育成に努める必要がある。					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・第57回松阪市美術展覧会 【出品者】326点(うち高校生以下 16点)、【来場者】3,014人(うち高校生以下 176人) ・夏休みこどもワークショップ2016 ○書道部門「一文字作品と雅印を作ろう！」 【開催日】平成28年8月18日 【参加者】小学生・中学生29名 ○写真部門「松阪の歴史を伝える！」 【開催日】平成28年8月19日 【参加者】小学校4～6年生4名とその保護者 					
今後の方向性・改善案		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の研鑽を審査いただく場として、また最も身近に芸術を鑑賞できる場として、松阪市美術展覧会を継続していくために、運営のあり方を検討していく。 ・次年度も、児童生徒を対象としたワークショップを継続して行い、文化芸術に興味をもち、自らが製作者となるような人材の育成につなげていく。また、高校生等のボランティアも募り、学校、地域、世代を超えた芸術活動の交流の場としていく。 					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	22	
事業名		文化芸術団体共催事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成24年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	120 千円	平成28年度決算	137 千円	平成29年度予算	215 千円
事業の目的	文化芸術団体のネットワーク組織である「松阪市文化芸術団体連絡協議会」の各ジャンルの取組を、同協議会を通じて共催事業という形で支援し、文化振興を図る。						
事業の内容	文化センターでの公演並びに文化財センターギャラリーでの展示会等を実施し、より多くの市民に芸術文化の鑑賞及び体験の機会を提供することにより、芸術文化に対する関心を深める。						
複数年度における事業の進捗度等	平成23年7月、市内で活動する様々な文化芸術団体がジャンルごとにまとまり、そのネットワーク組織となる「松阪市文化芸術団体連絡協議会」が設立され、当協議会を文化振興の核となる組織として位置づけた。						
検討課題	松阪市文化芸術団体連絡協議会の加盟団体相互の情報共有、及び交流を目的とした会議等の機会を増やし、加盟団体間、並びに市との連携を強化する必要がある。 また、市内には松阪音楽文化協会や嬉野文化協会が存在するが、各協会に加入されている団体の一部しか同協議会に加盟されていない。						
28年度の取組	「永遠のスクリーンミュージックⅢ」、「松阪市民ギター音楽祭」、「コーラス若草40周年記念コンサート」、「松阪市民能」、「松阪写真交流会フォトフェスティバル」の5事業を共催事業として実施した。						
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・加盟団体相互の情報の共有及び交流を目的とした会議等を年間2回は開催し、加盟団体間と市の連携を強化するとともに、異文化の交流を図る。 ・松阪市文化芸術団体連絡協議会と市が協働し、文化芸術の普及、振興に資する事業の充実を図る。また、鑑賞型の自主事業とすみわけを行い、市民参加型の事業としての展開を図っていくことで、より多くの市民に芸術文化に対する関心を持っていただく。 						

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	23	
事業名		文化センター自主事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	10,733 千円	平成28年度決算	11,124 千円	平成29年度予算	12,926 千円
事業の目的		市民に優れた文化芸術を享受・参加する機会を提供することで、文化芸術に対する関心を高め、松阪市の文化芸術の水準の向上を図る。					
事業の内容		文化センターを中心に、コンサートなどの鑑賞型事業及び体験型事業等を実施し、多くの市民に文化芸術に触れる機会を提供する。					
複数年度における事業の進捗度等		鑑賞型事業主体から、市民参加型事業及び体験型事業を多く実施する方向で進めており、舞台裏見学会や松阪の第九コンサートを継続して実施している。					
検討課題		市民の文化芸術活動を支援・育成する事業を積極的に取り入れるとともに、鑑賞型の事業においても市民の意向をより多く反映した事業の展開が必要である。 また、会館の運営に寄与するような収益性の高い事業の実施も考慮していく必要がある。					
28年度の取組		自主事業として、【クラギ文化ホール】6事業、【農業屋コミュニティ文化センター】2事業、【嬉野ふるさと会館】2事業、【飯南産業文化センター】1事業、【ハートフルみくもスポーツ文化センター】1事業の計12事業を実施した。 自主事業の入場者数は【クラギ文化ホール】4,309人、【農業屋コミュニティ文化センター】535人、【嬉野ふるさと会館】736人、【飯南産業文化センター】240人、【ハートフルみくもスポーツ文化センター】170人の計5,990人であった。					
今後の方向性・改善案		今後も、市民参加型事業を実施し、文化芸術に対する市民の意識の高揚を図っていく。 また、民間業者等との自主共催事業の実施による事業経費の削減や市民のニーズに応えた多様性のある事業の展開を図っていく。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	24
事業名		歴史的建造物公開事業			評価	平成28年度
担当課		文化課	事業年度	平成17年度～継続中		A
予算・決算	平成27年度決算	26,500 千円	平成28年度決算	36,451 千円	平成29年度予算	45,313 千円
事業の目的	<p>貴重な歴史的文化的遺産である建造物を維持管理し、その文化財としての価値を保持し、将来にわたって適切な保存、活用を行う。また、歴史的建造物の積極的な公開を通じ、歴史的価値、本物のもつ魅力を伝えることで文化財保護の重要性に係る普及啓発を推進する。</p>					
事業の内容	<p>御城番屋敷、原田二郎旧宅、旧長谷川邸等、市内に所在する歴史的建造物について、その文化財的価値を将来にわたり保持するため、建造物及び庭園等の適切な維持管理を行うとともに、市民・観光客が快適に見学できる環境を整備し、公開を行う。</p>					
複数年度における事業の進捗度等	<p>平成2年度から「御城番屋敷」、平成24年10月から「原田二郎旧宅」、平成25年度から「旧長谷川邸」の公開を開始してきた。</p>					
検討課題	<p>平成31年度の旧長谷川邸公開範囲等拡大に向けた整備に伴う予算措置が必要となると同時に、観光交流拠点施設と一体的な活用を図るための管理運営体制の検討が必須となる。 また、今後予定される旧長谷川邸本格修理工事事業について、国庫補助事業として実施したいことから、文化庁の指導・許可等が不可欠であり、また、多額の費用と長い工期が必要となる。</p>					
28年度の取組	<p>※各施設の入館者数 ・御城番屋敷:40,011人 ・原田二郎旧宅:6,121人 ・旧長谷川邸:フリー公開 12,818人(年間66日)、団体公開 1,664日(62団体)、合計 14,482人 ※旧長谷川邸「火用心」札 印刷体験 平成28年10月9日・10日 参加者数 181人 ※旧長谷川家住宅離れ修理工事設計管理業務委託 工期:平成28年4月14日～平成29年3月24日 ※旧長谷川家住宅離れ修理工事 工期:平成28年11月22日～平成29年3月15日 ※原田二郎旧宅企画展示 平成29年1月7日～平成29年2月26日 入場者数 718人</p>					
今後の方向性・改善案	<p>各施設の適正な保存整備及び環境整備を図りながら、入館者の増加に向け、効率的な公開・展示方法を検討する。また、平成29年度より「天然記念物保存事業費」「史跡等管理事業費」を統合したうえで事業名を「文化財保存管理活用事業費」に改め事務の効率化を図る。</p>					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	25	
事業名		松坂城跡保存整備事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成25年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	11,842 千円	平成28年度決算	7,100 千円	平成29年度予算	7,929 千円
事業の目的	平成23年の国史跡指定によって、将来にわたり市のシンボルとして、また市民がさまざまな行事をこの城跡で行い、数多くの人びとの集い・憩いの場として、市を代表する観光拠点として今後も在り続けるよう整備を図る。						
事業の内容	国指定史跡松坂城跡の価値を今後も保存し、それを活用するための保存整備について、市民、専門家とともに松坂城跡保存整備検討委員会を開催し、「整備基本計画書」及び文化財調査の結果に基づき、石垣補修・園路改修等の各種整備を行う。						
複数年度における事業の進捗度等	平成26年度から平成27年度にかけて「石垣調査」を実施。平成27年度に「史跡松坂城跡整備基本計画書」の取りまとめ、及び「石垣測量調査」「石垣発掘調査」を実施した。平成28年度は、支障木・危険木調査を実施し、その結果に基づき樹木の伐採を行った。						
検討課題	当面は史跡の保存及び安全性の向上といった緊急性の高い整備を実施するが、その後の整備は史跡保存と公園機能向上の両立を目指すことになる。その整備には史跡保護の観点から国の許可が不可欠であり、実施にあたっては文化庁や整備検討委員会の指導に基づいた基本・実施設計が求められ、事業の長期化及び予算の増大が予想される。						
28年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・松坂城跡の保存・整備を進めるための整備検討委員会を2回開催した。 ・平成28年度史跡松坂城跡危険木支障木調査業務委託 工期：平成28年4月12日～平成28年8月31日 ・平成28年度史跡松坂城跡樹木伐採業務委託 工期：平成28年12月27日～平成29年3月17日 ・松坂城跡史跡整備現地説明会 平成29年3月19日 参加者数55人 						
今後の方向性・改善案	「整備基本計画書」及び各種文化財調査の結果に基づき、計画的な石垣修理工事等の実施、環境整備を図っていく。						

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	26	
事業名		文化財センター特別企画展等事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	2,828 千円	平成28年度決算	3,181 千円	平成29年度予算	5,000 千円
事業の目的		<p>松阪市の文化財保護と文化芸術の振興を図るために、幅広い年齢層を対象とし、歴史・美術愛好家等だけでなく、市民をはじめとする多くの人に興味関心を持ってもらえるような特別展示や企画展示を行い、地域アイデンティティの形成に寄与していく。</p>					
事業の内容		<p>松阪市の文化財保護と文化芸術の振興を図るため、はにわ館及びギャラリーにて常設展・企画展等を開催する。</p>					
複数年度における事業の進捗度等		<p>旧カネボウ綿糸の綿糸倉庫を活用する形で、平成8年度に文化財センターとして開所し、平成15年度にははにわ館が開館して現在に至る。当初から特別展、企画展を継続して開催してきた。</p>					
検討課題		<p>事業目的の実現のため、はにわ館においては通年の常設展示「宝塚古墳の謎」、企画展3本、特別展1本を、また、ギャラリーでは造形関係の企画展示を開催している。 これらを通して、考古系の博物館として市内の遺跡や古墳、収蔵資料への関心の高まりやさらなる理解を図るために、企画内容の充実を進めていく。また、ギャラリーにおける企画展については市展の子どもワークショップとの連携を視野に内容を検討する。</p>					
28年度の取組		<p>開所、開館当初から継続している事業であり、はにわ館の入館者が平成15年度からおおむね年1万人で推移していることに大きく寄与している。 【平成28年度入館者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はにわ館 常設展(307日) 10,459人 ・はにわ館 企画展(3回:のべ121日)・特別展(1回:49日) 7,145人 ・ギャラリー 企画展(2回:のべ22日) 1,413人 ・灯りコンサート(1日) 227人 					
今後の方向性・改善案		<p>今後も継続し、入館者の増加に向けた効果的な内容の企画展等の開催について検討する。</p>					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	27	
事業名		松浦武四郎誕生地保存整備活用事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成19年度～平成30年度		A	
予算・決算		平成27年度決算	16,484 千円	平成28年度決算	57,336 千円	平成29年度予算	195,868 千円
事業の目的		市が史跡に指定する「松浦武四郎誕生地」(昭和37年三雲村指定)について、文化財保護の観点から史跡の保存を図るとともに、公開・活用を行う。					
事業の内容		史跡を構成する重要な要素である建物について、「主屋」、「離れ」を改修し内部も公開・活用できるように修理するほか、土蔵・納屋を補強して保存を図るとともに、外構・庭園等を整備し、史跡の公開・活用に努める。					
複数年度における事業の進捗度等		平成26年度から27年度にかけて、主屋・離れの改修工事に係る設計を行い、28年度から29年度にかけて建物改修工事を実施している。					
検討課題		<p>史跡の公開と活用にあたっては、地域の理解と協力が不可欠であり、地域に愛され、十分に活用してもらうようにしなければならない。</p> <p>また、平成24年度に開催したシンポジウムでは、さまざまな人びとが集い、交流できる場としても、史跡を活用していくことを求める声もあり、保存と活用のバランスをうまく取りながら、市民に広く活用していただけるよう努めていかなければならない。</p>					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・松浦武四郎誕生地整備検討委員会の開催(年2回実施) ・主屋および離れの建物修理工事および同工事の監理(平成28年度～平成29年度) ・土蔵および納屋補強、外構・庭園・駐車場等整備、トイレ新設に関わる設計業務の委託 					
今後の方向性・改善案		<p>今後の方向性</p> <p>平成29年度 主屋・離れ建物改修、外構・庭園等整備、備品購入・開館準備等</p> <p>平成30年2月の武四郎の生誕200年に合わせて一般公開予定</p> <p>平成30年度 史跡整備報告書の作成</p>					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	28	
事業名		指定文化財保存修理事業			評価	平成28年度	
担当課		文化課	事業年度	平成24年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	5,112 千円	平成28年度決算	5,040 千円	平成29年度予算	3,879 千円
事業の目的		国・県・市が指定する有形文化財について、傷みが激しい資料の保存修理を計画的に行い、100年、200年先へと貴重な文化財を後世に伝えるとともに、文化財を保護するだけでなく、活用することにより、観光、まちづくり、人づくりなど様々な分野において役立てる。					
事業の内容		<p>平成24年度 市指定文化財 宇田荻邨筆「鯛」（えり）保存修理</p> <p>平成25～26年度 重要文化財 松浦武四郎関係資料 保存修理（蝦夷屏風）</p> <p>平成27年度 重要文化財 松浦武四郎関係資料 保存修理（古鈴図、稲図、大台山頂眺望図、山本杉芽書簡）</p> <p>平成28年度 重要文化財 松浦武四郎関係資料 保存修理（豆遊日誌、夏景山水図）</p>					
複数年度における事業の進捗度等		平成25年度から、重要文化財に指定された松浦武四郎関係資料のうち、武四郎の自筆または出版された資料で、特に傷みが激しいものについて保存修理を進めてきた。					
検討課題		傷みが激しい資料については、文化庁および三重県教育委員会の指導と助言のもと、今後も継続して修理を行っていく必要がある。					
28年度の取組		<p>傷みの激しい資料2点の保存修理を行った。</p> <p>修理対象資料 豆遊日誌 松浦武四郎筆 冊子装 4冊</p> <p>夏景山水図 松浦武四郎筆 掛幅装 1幅</p>					
今後の方向性・改善案		<p>今後の修理予定</p> <p>平成29年度 野田竹溪書簡（半紙綴）・一枚もの資料・北海道国郡図（地図）</p> <p>平成30年度 榎林昌建書簡（半紙綴）</p>					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	29	
事業名		松阪市スポーツ推進計画策定事業			評価	平成28年度	
担当課		スポーツ課	事業年度	平成26年度～平成28年度		A	
予算・決算		平成27年度決算	267 千円	平成28年度決算	262 千円	平成29年度予算	0 千円
事業の目的	今後10年間の松阪市のスポーツ推進における基本方針を策定し、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を実現するためにどのような施策を展開すべきかの方向性を定めることを目的とする。						
事業の内容	スポーツ基本法の趣旨をふまえ、松阪市におけるスポーツに関する施策について、今後10年間の市の具体的な取り組みを示す松阪市スポーツ推進計画を策定する。						
複数年度における事業の進捗度等	平成27年度策定に向け、平成26年度は策定委員会の開催や市民意識調査を実施したが、松阪市総合計画との整合性を図るため、策定を平成28年度とし、平成27年度は、策定委員会や市民参加によるワークショップを開催した。						
検討課題	スポーツ施設の改修等では財政当局との協議や松阪市公共施設等総合管理計画との整合性が必要である。						
28年度の取組	松阪市スポーツ推進計画策定委員11人。 松阪市スポーツ推進計画策定のため策定委員会を2回開催し、またパブリックコメントを実施し、平成29年3月21日に松阪市教育委員会教育長に答申を行った。						
今後の方向性・改善案	全ての市民がスポーツの楽しさや感動を分かち合い、ともに支え合うスポーツライフを確立することにより、健康でいきいきと暮らす生涯スポーツ社会を実現することを目指し、松阪市スポーツ推進計画に基づき、様々な事業の推進を図る。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	30
事業名		全国大会等出場派遣支援事業			評価	平成28年度
担当課		スポーツ課	事業年度	平成17年度～継続中		A
予算・決算	平成27年度決算	4,013 千円	平成28年度決算	7,291 千円	平成29年度予算	4,936 千円
事業の目的	市民のスポーツに対する関心を深め、日頃のスポーツ活動の成果として国際的又は全国的水準で開催されるスポーツ競技大会などへの出場者への激励金交付及び全国大会等での優秀選手にスポーツ賞を授与することにより、トップ選手の育成に努めスポーツの振興と競技力の向上を図る。					
事業の内容	<p>○激励金の交付 予選を勝ち抜いて全国大会に出場する選手等に対し、1人につき10,000円の激励金を交付する。(国際大会は50,000円、オリンピックは500,000円)</p> <p>○スポーツ賞の授与 全国大会3位以内に入賞した選手、または国際大会に出場した選手の中から松阪市スポーツ賞選考委員会において選考を行いスポーツ賞を授与する。</p> <p>○横断幕の掲示 全国大会や国際大会で優秀な成績を収めた選手の功績を称えJR松阪駅前広場中央シェルターに横断幕を掲示する。</p>					
複数年度における事業の進捗度等	各種全国大会や国際大会に出場する個人、団体を対象に激励金を交付するとともに、全国大会等での上位入賞者へスポーツ賞を授与し、競技者の向上心を高め、市民のスポーツの振興を図っている。					
検討課題	近年、各種目において多くの全国大会が開催されるようになってきている。要綱を定めて交付を行っているが、近隣市町にも同種の制度があるものの、対象となる大会に差異があるため今後も県内の制度を調査し事業の内容を協議していきたい。また、大会日程などによりスポーツ激励会に参加できない対象者もあり、スポーツ激励会の開催方法について検討が必要である。					
28年度の取組	<p>激励金 個人166人 団体42団体258人 スポーツ感動賞個人1人 スポーツ大賞個人1人 スポーツ賞 個人19人 10団体40人</p> <p>松阪市出身の土性沙羅選手オリンピック出場関連の事業として、壮行会、パブリックビューイング(500人)、パレード(15,000人)、金メダルを祝う会(700人)を実施した。</p>					
今後の方向性・改善案	スポーツ賞において、世界大会、全国大会等で活躍した選手を積極的に表彰を行うことや、全国大会等に出場し優秀な成績を収めた選手の功績を称えJR松阪駅前広場中央シェルターに横断幕を掲示し、広く市民に広報することにより市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図っていきたい。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	31	
事業名		スポーツ大会等運営事業			評価	平成28年度	
担当課		スポーツ課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	1,989 千円	平成28年度決算	2,747 千円	平成29年度予算	3,191 千円
事業の目的		国体をはじめとする全国規模の大会の誘致や、競技水準の高いスポーツを見る機会、また主に市民を対象としたスポーツ大会や気軽に参加できるスポーツ大会などの開催により、スポーツのすそ野や競技人口の拡大を図る。また、地域の特色あるスポーツ事業を実施し、地区住民のスポーツに参加する機会を増やす。					
事業の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・各種市長杯争奪大会 市民により多くのスポーツに参加する機会の提供を目的に、市長杯争奪大会を開催する。また、児童水泳記録会などを体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会に委託し、多くの市民にスポーツの参加機会を提供する。 ・各振興局管内は、地区体育振興会がスポーツ推進委員等と協力して、地域内における「健康づくりのためのスポーツ」事業やスポーツを通じたコミュニティづくりなど、それぞれ特色のあるスポーツ活動を展開する。 					
複数年度における事業の進捗度等		市内各所で誰もが参加できるスポーツ大会を行い、市民が参加しやすい大会を開催している。					
検討課題		限られた種目で市長杯が実施されてきた。また、職員が大会参加チームのとりまとめや運営を行っていたが、各競技団体に参加募集から大会運営まで行えるよう移行している。今後同一種目内での部門の増加(大人の部、子どもの部など)や参加募集範囲などを検討し、種目内の年齢層の拡大が必要である。					
28年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ○市長杯関係大会・・・16種目開催 参加人数4,248人 ○児童水泳記録会の開催・・・226人参加(27校) ○振興局管内開催分 嬉野管内(ふれあいフェスティバル、なめり湖健康ウォーキング)、三雲管内(松阪市シャフルボード大会inみくも、松阪市スカットボール大会inみくも)、飯南管内(ジョギング大会IN茶倉、市民駅伝飯南大会)、飯高管内(ビーチボールバレー大会in飯高) 					
今後の方向性・改善案		大会運営等を競技団体が実施することにより、より専門性の高い大会開催を実施可能とすることや、事務の効率を図る。また、平成29年度は19種目の市長杯を開催予定であるが、市長杯を実施していない競技団体と市長杯の開催を検討する。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	32	
事業名		シティマラソン大会事業			評価	平成28年度	
担当課		スポーツ課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	8,000 千円	平成28年度決算	8,000 千円	平成29年度予算	8,000 千円
事業の目的		マラソンをとおして、市民の体力づくりと健康増進を図るとともに、市内外の幅広い年齢層から参加者を募集し、交流・親睦の場を提供すると共に、健康の増進に大きく寄与することを目的とする。またコース沿道周辺地区の自治会やまちづくり協議会との連携を図ることで官民一体の事業としての大きな役割を持つ。					
事業の内容		<p>松阪市最大のスポーツイベントとして、松阪地区陸上競技協会を中心とした実行委員会を組織して実施する。</p> <p>種目 【ハーフマラソンの部、5kmの部、3kmの部、ウォーキングの部】</p> <p>主催 松阪シティマラソン大会実行委員会、松阪市、松阪市教育委員会</p> <p>大会コース 松阪市総合運動公園 周辺道路(ランニングの部) 鈴の森公園⇒松阪市総合運動公園(ウォーキングの部)</p> <p>メイン会場 松阪市総合運動公園芝生広場(ランニングの部) 鈴の森公園(ウォーキングの部)</p>					
複数年度における事業の進捗度等		平成17年の合併後、第1回を開催し毎年市内外から多くの参加者を集め、大規模なスポーツイベントとして毎年開催している。					
検討課題		メイン会場をはじめ駐車場等などの施設や、沿道の応援、出店ブースなどでの参加ランナーに対するおもてなしなど、参加されるランナーの満足度をより高めるための事業企画・運営を検討する必要がある。また、より多くの市民が参加可能とするため開催日の設定や部門設定などを検討する必要がある。					
28年度の取組		第12回大会は2,642人の市内外のランナーの参加申し込みがあり開催することができた。また、大会運営に携わる多くの大会ボランティアや、沿道での応援など、ランナーのみでなく様々な形で市民が参加できる大会となった。					
今後の方向性・改善案		マラソンは子どもから高齢者まで自分の力に応じて挑戦できる競技であることから、市民に親しまれる競技である。いつでも、どこでも、いつまでも気軽に楽しむことができるマラソンを通じて市民の体力増進・健康維持を推進する事業であるとともに、「する」、「みる」、「支える」人のスポーツの輪の広がり、スポーツを通じて市民と行政が共に協力しながらスポーツイベントを行い、元気で活力のある松阪を広く市内外へのPRや交流ができる事業とする。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	33	
事業名		スポーツ少年団補助金			評価	平成28年度	
担当課		スポーツ課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	2,960 千円	平成28年度決算	2,873 千円	平成29年度予算	3,240 千円
事業の目的		低年齢からの体力づくり、子どもの継続したスポーツ活動及びスポーツ人口の拡大を図るとともに、青少年の健全育成に寄与する。					
事業の内容		この補助金は、松阪市スポーツ少年団に登録している各団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助し、下記のとおり算定で支援している。 各登録団の活動費のなかで補助対象経費の2分の1に相当する額を補助し、60,000円を1登録団の上限とし、予算の範囲内で交付するものとする。					
複数年度における事業の進捗度等		松阪市スポーツ少年団に登録している各団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助している。					
検討課題		スポーツ少年団は、各団が活発に活動することによって青少年の心身の健全な育成を図ることを目的に活動しており、この補助金は、その活動に必要な経費に当てられ各団の運営に必要なものと考えている。しかしながら、近年における少子化や社会状況の変化により青少年の余暇の過ごし方が多様化する中、スポーツへの関心が低くなりつつあり、スポーツを行う子どもが減少傾向にある。					
28年度の取組		スポーツ少年団登録 53団(団員数1,080人、指導者数214人)					
今後の方向性・改善案		総合型地域スポーツクラブや各競技団体などとの連携により、子どもがスポーツを行うきっかけづくりの場の提供や、地域で活動するスポーツ少年団の活動内容等を対象児童の保護者へ周知するなど、スポーツ少年団等への加入を進め、入会による少年団の会員数の増加を図る。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	34
事業名		中部台運動公園施設整備事業			評価	平成28年度
担当課		スポーツ課	事業年度	平成24年度～継続中		A
予算・決算	平成27年度決算	24,767 千円	平成28年度決算	31,163 千円	平成29年度予算	27,850 千円
事業の目的	・経年劣化による施設の改修を行い、施設の利用環境の改善を図る。					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・松阪市さんぎんアリーナ競技場照明設備改修工事費 15,164,280円 ・中部台運動公園テニスコート改修工事費 15,999,120円 					
複数年度における事業の進捗度等	・さんぎんアリーナ(松阪市総合体育館)及び中部台運動公園テニスコートの平成28年度に計画した工事について終了した。施設改修については、実施計画に基づき実施している。					
検討課題	・中部台運動公園の各施設は、経年劣化による改修部分が年々多くなってきている。年次計画的改修を実施しているが、突発的な修繕が発生することもあり、施設管理に十二分な留意が必要となる。					
28年度の取組	さんぎんアリーナは、昭和50年度に建設されたもので、競技場の照明が老朽化により交換不能で一部不点灯となっているものがあり、競技にも支障があったため、すべてLED球に交換し利用環境の改善を図った。 また、中部台運動公園テニスコート6面は、人工芝のコートが経年劣化により摩耗しているため、年次計画により平成28年度は2面の張替え工事を実施し、施設の快適性や安全面の改善を図った。					
今後の方向性・改善案	・中部台運動公園内の各施設は、老朽化が進んできており、安全性や利便性を高め、利用者サービスの向上を図っていくことが重要であるため、日常的な点検を行いながら改修工事については計画的に実施していきたい。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	35	
事業名		(新規事業)松阪市立小学校プールのあり方検討委員会事業			評価	平成28年度	
担当課		教育総務課	事業年度	新規(平成28年度)		A	
予算・決算		平成27年度決算	0 千円	平成28年度決算	381 千円	平成29年度予算	0 千円
事業の目的		現在、市内36校の小学校に設置されている学校プールについては、一部の学校で老朽化が進んでおり、今後、建替え等を検討していく必要がある。					
事業の内容		教育委員会より、検討委員会に小学校プールのあり方について設問した上で、①単独での整備、②センター校方式、③民間プールの活用、④市営プールの活用など、学校プールのあり方について議論する検討委員会を開催し、答申を受ける。					
複数年度における事業の進捗度等		—					
検討課題		市内36校の小学校にプールを設置しているが、老朽化が進み維持修繕費が増加している。プールの更新整備費は高額であり、①単独での整備、②センター校方式、③民間プールの活用、④市営プールの活用など、今後の学校プールのあり方についての検討を行う。					
28年度の取組		平成28年度松阪市立小学校プールのあり方検討委員会(委員10名)を5回開催し、民間プールの視察を行った上で議論し、学校プールを更新するのではなく、民間プールを活用し授業を行う手法を最優先で考え、民間プールを活用できない場合は、センター(集約)化を考え、それも不可能な場合は、プールを更新することと結論づけた答申を受けた。					
今後の方向性・改善案		答申を基に民間プールの活用等の検討を行う。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	36	
事業名		小学校施設維持修繕事業			評価	平成28年度	
担当課		教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	74,989 千円	平成28年度決算	82,950 千円	平成29年度予算	111,852 千円
事業の目的		建物の老朽化・狭隘化の改善や教育の多様化、進展著しい高度情報化などに対応しうる施設機能の充実、災害等に対応する安全性の確保や省資源対策を図る。					
事業の内容		小学校施設を安全で良好な状態に保ち、より効果的に施設を活用するためや時代の要請に即した施設水準を確保するための維持修繕工事を実施する。					
複数年度における事業の進捗度等		緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施。					
検討課題		児童等が一日の大半を過ごす学校施設を安全安心に保ち、時代の要請にあった施設水準を確保するために小学校施設の維持修繕工事を行う。					
28年度の取組		松江小学校外3校施設維持修繕工事設計業務委託 空調設備設置工事(第二小、射和小、中川小、中原小、米ノ庄小)、外壁改修工事(花岡小、豊田小、西黒部小)、屋上防水工事(西黒部小、漕代小、射和小、中原小)、屋内運動場屋根塗装改修工事(第四小、花岡小)、トイレ改修等工事(第五小、松尾小、てい水小)、シャワー室等設置工事(松江小)、インターホン改修工事(鶴小)、プールサイド改修工事(松江小)、受変電設備改修工事(第一小、第二小、山室山小、漕代小、松ヶ崎小、宮前小、中原小、川俣小)などを実施した。					
今後の方向性・改善案		施設維持修繕事業については、学校施設の単なる修繕工事だけでなく、学校等環境改善工事(空調、トイレ洋式化等)、また、老朽化が深刻な状況であるため予防修繕工事(消防設備更新、高圧電気設備更新、受水槽等水道設備更新、防水工事等)について緊急性・危険性を十分考慮し実施していきたい。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	37
事業名		粥見小学校校舎改築事業			評価	平成28年度
担当課		教育総務課	事業年度	平成27年度～平成30年度		A
予算・決算	平成27年度決算	1,549 千円	平成28年度決算	45,196 千円	平成29年度予算	498,826 千円
事業の目的	老朽化とともに学校教育を行うのに不適當な建物の改築を行い教育環境の改善を図る。					
事業の内容	粥見小学校の校舎は、昭和34年5月と8月建築で築58年が経過し、老朽化が著しいことや、バリアフリーの推進、給食昇降機がないことなどの教育環境の改善を図るため校舎の改築を実施する。					
複数年度における事業の進捗度等	平成27年度に耐力度調査を実施。平成28年度に基本設計、実施設計、地質調査を実施。					
検討課題	平成27年度について耐力度調査を実施し、国庫補助等にかかる採択確認をし、改築準備委員会(平成28年に建設委員会に改称)を立ち上げ、平成28年度の校舎改築に係る基本設計及び実施設計を実施。今後、校舎建設について、学校、PTA、地元関係者の協力を得ながら、具現化を目指す。					
28年度の取組	粥見小学校建設委員会の開催(5回)及び校舎改築に係る基本設計及び実施設計を行った。					
今後の方向性・改善案	校舎の改築により、今後適切な施設管理を実施し、教育環境の改善を図る。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	38	
事業名		中学校施設維持修繕事業			評価	平成28年度	
担当課		教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中		A	
予算・決算		平成27年度決算	35,153 千円	平成28年度決算	68,934 千円	平成29年度予算	61,274 千円
事業の目的	建物の老朽化・狭隘化の改善や教育の多様化、進展著しい高度情報化などに対応しうる施設機能の充実、災害等に対する安全性の確保や省資源対策を図る。						
事業の内容	中学校施設を安全で良好な状態に保ち、より効率的に施設を活用するためや時代の要請に即した施設水準を確保するための維持修繕工事を実施する。						
複数年度における事業の進捗度等	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施。						
検討課題	生徒等が一日の大半を過ごす学校施設を安全安心に保ち、時代の要請にあった施設水準を確保するために中学校施設の維持修繕工事を行う。						
28年度の取組	空調設備改修工事(久保中、三雲中)、屋上防水改修工事(中部中)、屋内運動場床改修工事(東部中)、トイレ改修工事(飯南中)、受変電設備改修工事(嬉野中、飯高中)などを実施した。						
今後の方向性・改善案	施設維持修繕事業については、学校施設の単なる修繕工事だけでなく、学校等環境改善工事(空調、トイレ洋式化等)、また、老朽化が深刻な状況であるため予防修繕工事(消防設備更新、高圧電気設備更新、受水槽等水道設備更新、防水工事等)について緊急性・危険性を十分考慮し実施していきたい。						

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	39
事業名		中学校防災防犯対策事業			評価	平成28年度
担当課		教育総務課	事業年度	平成27年度～継続中		A
予算・決算		平成27年度決算	26,881 千円	平成28年度決算	37,025 千円	平成29年度(繰越)予算 33,110 千円
事業の目的	学校生活の安全・安心の確保を行う上で、地震時の吊り天井等非構造部材の耐震化対策として、市内中学校の体育館や武道場の吊り天井を改修する。					
事業の内容	地震に対する非構造物の耐震化対策として、市内中学校の体育館、武道場の吊り天井を改修し、建物の安全性の向上を図る。(平成29年度に3校実施予定。) ついては、震災等災害時における避難場所等を整備することで生徒の安全や地域住民等の安全・安心を確保する。					
複数年度における事業の進捗度等	平成27年度 実施1校体育館 : 飯高中(旧飯高東中) 平成28年度 実施4校武道場 : 殿町中、中部中、西中、嬉野中 平成29年度へ繰越(実施予定3校武道場) : 鎌田中、久保中、東部中					
検討課題	学校生活の安全・安心の確保を行う上で、地震時の吊り天井等非構造部材の耐震化対策を実施する。					
28年度の取組	学校生活の安全・安心の確保を行う上で、地震時の吊り天井等非構造部材の耐震化対策として、市内中学校4校(殿町中、中部中、西中、嬉野中)の武道場吊り天井を改修した。					
今後の方向性・改善案	平成29年度について、引き続き市内中学校3校(鎌田中、久保中、東部中)の武道場天井改修工事を予定。					

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	40
事業名		鎌田中学校校舎改築事業			評価	平成28年度
担当課		教育総務課	事業年度	平成23年度～平成32年度		A
予算・決算	平成27年度決算	384,560 千円	平成28年度決算	32,150 千円	平成29年度予算	72,372 千円
事業の目的	老朽化に伴う教育環境整備、及び、今後の鎌田中学校区の生徒増加に伴う教室不足を解消するため校舎改築を行い教育条件の整備充実を図る。					
事業の内容	昭和36年5月（築56年）と昭和33年12月（築58年）築の校舎で、耐震性はあるものの老朽化が著しく、教育環境整備並びに教育条件充実のために校舎改築を行う。					
複数年度における事業の進捗度等	平成23年度に耐力度調査、境界測量を行った。平成24年度に用地取得のための建物調査を行った。平成25年度に用地取得のための土地鑑定評価及び営業調査を行った。平成26年度初旬の隣地買収交渉により、土地売買契約等により学校施設用地取得が決定した。平成27年度については、鎌田中学校校舎改築事業基本構想及び基本計画を作成し、鎌田中及び第四小周囲の測量図面を作成した。					
検討課題	鎌田中学校校舎改築事業は、平成26年7月の隣地用地取得により、学校施設用地が決定し、建設に向け具体的な設計協議を学校関係者等と行う。については、用地買収・造成工事・建築工事等に概算で工事費を見直し全体として約47億円の事業費を必要としている。（平成23年度～32年度）					
28年度の取組	平成28年度については、プロポーザルによる業者選定において、10月に基本設計及び実施設計業者を決定し、新校舎建設に向けた設計について平成29年5月末までに基本設計、地質調査業務、また、平成29年度末までに実施設計の完成を目指す。 また、鎌田中学校現有地及び拡張用地の赤道・水路・市道にかかる測量分筆等を実施した。					
今後の方向性・改善案	今後の建設に向け、具体的な協議を学校関係者等と行う。					

4 総評

6つの夢ナビゲーション別のそれぞれの事業の評価は、全体的に目標を達成できているが、前年度に比べて1事業が評価を落としていることや昨年度から引き続き「B評価」となった事業が2事業あり、今後も各事業の課題を十分に検討し、改善していく必要があると考えます。

教育委員会といたしましては、今後は、最終年となった教育ビジョンを継承した新たな教育ビジョンのもと、新たな教育課題に対する取組をしっかりと行い学校と家庭、地域が一体となって「夢を育み、未来を切り拓く、松阪の人づくり」を進めてまいります。

また、現場の声をしっかりと踏まえて教育施策、事業を進めるため積極的に教育現場を訪問し、情報収集、意見交換に努めます。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1. 委員選任状況

(平成29年3月末現在)

職名	氏名	任期
教育長	中田 雅喜	自 平成29年3月25日 至 平成32年3月24日
教育長職務代理者	山川 隆志	自 平成26年2月26日 至 平成30年2月25日
委員	鷺尾 節子	自 平成27年2月26日 至 平成31年2月25日
委員	竹内 一	自 平成28年2月26日 至 平成32年2月25日
委員	長島 彩子	自 平成29年2月26日 至 平成33年2月25日

※教育長の任期は3年間。教育委員の任期は4年間。

2. 会議の開催状況

会議	平成28年度
定例会	12回(毎月1回)
臨時会	6回

3. 審議状況

ア 付議案件数

案件	28年度
議案	24件
報告	112件

イ 審議された主な議案等

- (1) 教育委員会規則等の制定・改正に関すること。
- (2) 人事に関すること。
- (3) 教育施策に関する基本的な方針に関すること。
- (4) 市議会に提出する予算等に関すること。
- (5) 文化財に関すること。
- (6) 審議会等委員の委嘱に関すること。
- (7) 教育委員会事務局各課の事業に関すること。
- (8) 児童生徒の問題行動等に関すること。

4. 研修及び学校訪問等

松阪市の児童生徒の学力向上に向けた取組を進めることを目的に、広島県呉市が進める小中一貫教育の取組についての聞き取りを行い、呉市立中央学園においては、一体型の小中一貫教育のメリットや工夫など学校現場での取組の聞き取りや広島県竹原市のたけはら町並み保存地区において、江戸時代後期に製塩や酒造業で栄えたお屋敷や由緒あるお寺の町並みが現在も当時のそのままに保存されている重要伝統物保存群地区を視察しました。

視察の成果といたしましては、呉市の小中一貫教育において、課題もあるが多くの成果が見られることが実感でき、特に、中学校区で教育目標や研修主題の共有により、小中学校で協働して教育活動を行うことで、系統性のある指導を行うことができることや児童生徒への関わり方や指導の工夫などを参考にして松阪市における小中学校での学力向上の取組を進めていきたいと考えています。

その他参加した研修等

- ・全国都市教育長協議会
- ・平成28年度三重県市町教育委員会連絡協議会
- ・東海北陸都市教育長協議会
- ・三重県市町教育長会議
- ・三重の教育談義

IV 第三者評価

1. 第三者評価委員

名 前	所 属 等
杉田 勝雄	元三重中京大学短期大学部教授・教学部長 (元松阪市教育ビジョン構築検討委員会委員)
小林 平八郎	松阪市教育ビジョン検討委員会委員 (副委員長)
前田 則生	松阪市PTA 連合会会長

2. 第三者評価

【杉田勝雄委員】

(1)はじめに

平成 19 年に策定され 10 年間の松阪の教育指針としての教育ビジョン、平成 29 年を持って最終となる。教育ビジョンは基本理念、3 つの目指す子ども像としてのビジョン、その実現のための重点目標として 6 つの戦略のグランドデザインが明示されている。そして、教育ビジョン実現のため 40 の事務事業ごとの評価シートによる現状認識と評価・分析・改善のマネジメントがなされている。まさに、科学的ですばらしい組織運営であり説明責任に耐え得るものである。

総合的にみると、殆どが A 評価であり教育ビジョン・目指す子ども像は達成されていると判断できる。また、学校組織の変革であるチーム学校、コミュニティ・スクール、国際社会への対応としての英語教育、幼・小・中と継続的な学力の向上への時代の流れを見据えた事業、文化・芸術・スポーツへの予算の向上、生涯学習の事業等まさに教育ビジョンの基本理念に向かった教育活動である。

(2)重点目標(夢ナビポイント)検証

① 就学前教育の充実について

常に、幼・小・中と一貫した事業推進がなされていることは義務教育学校の理念よりすばらしい取組である。このことは、松阪市の教育課題であった学力の向上に変化をもたらしている。また、「松阪市立幼稚園・保育園のあり方基本方針」に基づき施設の再編・統合を進めたり、私立幼稚園との対応等評価に値する事業推進である。

② 学びの基礎を育む教育の充実について

評価シート番号 2 の学力向上推進事業の事業目的に提示されている幼稚園・小学校・中学校と家庭や地域が連携し、就学前から小学校・中学校までの発達段階に応じて「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」を図ることを目指すということが教育ビジョンの基本理念そのものである。その結果、学力向上についての成果が上がりつつあることは評価に値する。

また、チーム学校として学校が動き出す支援を事業を通して実施していることはすばらしいことである。

課題としては「児童生徒安全対策支援事業」において学校安全にかかわる「安全教育」

「安全管理」についてきめの細かい支援事業が必要である。

③ 生涯学習の推進について

こどもまつり大会・青少年健全育成・新成人のつどい・生涯学習振興と年代別のバランスの取れた事業展開であり、まさに生涯学習に値する。また、各年代の知識・情報・文化を支える図書館管理運営事業についても幾つかのすばらしい取組がなされている。松阪図書館の改修計画推進は市民ニーズに答えるすばらしい文化発祥の施設と期待できる。

④ 文化・芸術の振興について

歴史・文化・芸術の街にふさわしい事業展開である。57 回目を迎えた美術展覧会は高い水準の作品が増えている。また、高校生の出品、夏休みこどもワークショップ 2016 はすばらしい取組であり大いに評価できる。

また、文化財についての事業は、すばらしい企画と専門的な見地からの保存・整備・改修がなされている。何よりも市民に開かれた文化財としての考え方による事業推進は教育ビジョンの理念に整合している。まさに、歴史・文化・芸術の街・松阪である。

⑤ スポーツライフの実現について

文化・芸術の振興とともにスポーツの振興においても高水準で裾野の広がる事業を展開させていることはすばらしいことである。まさに、市民の心身の健康とスポーツライフの保障がなされている。全ての評価が A ランクであり「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」という重点目標は十分に達成されている。やがて来るオリンピック・パラリンピックに向かってさらに事業の推進が大切である。

⑥ 新しい教育の創造について

どの事業も高額の予算を必要とするものである。しかしながら、厳しい予算の中で事業を推進していくため、年度計画の工夫の基に努力されている様子が読み取れる。時代の流れの中で、新しい教育の創造が求められている現在において、「未来への投資」として事業の推進が大切である。

(3) まとめ

各課の懸命な取組において、教育ビジョンの集大成がなされようとしている。各課の不断の努力に敬意をはらうとともに頭の下がる思いである。

特に、今、教育は大きな転換期である。学校における授業は「教える授業」から「学び合う学習」へ、「個が集団を指導する教育」から「集団が個を指導する教育」へ、即ち、「アクティブ・ラーニング」や「チーム学校」へと変化する。やがて到来する「知識基盤社会」に対応する「21世紀型能力」の育成に向けて学校現場がうまく変化できるサポート事業が望まれる。

【小林平八郎委員】

松阪市教育ビジョンは、平成 17 年 1 月 1 日、1 市 4 町が合併し、2 年を経過した平成 19 年 12 月に、松阪市の教育のあり方を総合的・広角的につくりあげられた素晴らしいビジョンです。それから 10 年経った平成 28 年度に改定されましたが、この間、ビジョンの追求と達成に向かって日々鋭意努力されてこられた行政、教育関係者と広く市民の方々に敬意を表します。

今年度点検・評価を行う事業は、10 年を経過した最終年ということになりますが、教育事業は単年度、短期間で終わるものは少なく、殆ど継続中となっています。ビジョンは 6 つの夢ナビゲーションとそれを支える 40 のポイントで構成されていますが、特に学校教育に関わるいくつかの事業を以下評します。

1、学びの芽生えを育む就学前教育の充実

番号 1 について

平成 32 年度に小学校 5・6 年生に外国語科が教科として導入され、3 年生にまで外国語活動が拡充されます。このために、ALT の充実、教職員の英語力・指導力、国際理解力の向上は心須であることから、積極的に年次的、計画的に指導者の充実をめざしていることは極めて有効であると考えます。このための事業費も年々増加していることは否めないことと考えます。

番号 2 について

子どもたちの学力の向上と豊かな心の育成を目指して、幼・小・中の発達段階に応じて、学校、家庭、地域が連携することは理想的なあり方であると思います。殿町中学校と中部中学校が校区の幼・小・中の連携教育を実践したことは、特に教職員が子どもの発達段階に応じた幅広い教育の在り方を理解することが出来たものと考えます。

指導主事を積極的に校内研修会に派遣していることは、学校からそれだけの要請があったことで、教職員の指導力や資質の向上が図られていると伺えます。更なる推進を期待します。

「本居宣長さんの教え、5 つのチャレンジ」を全市的な取組としていることは、子どもたちの心の成長に大きな影響を与えるものと思われれます。滋賀県高島市において、中江藤樹の教えを取り上げている学校もあるように、先人の教えは時代を超えて生きるものと考えます。

番号 3 について

保育士、教職員の研修は、指導力、資質の向上を図ることで極めて大事と考えます。計画的に推進してほしいが、事業費が低く、しかも 29 年度予算は僅かながら減少していることが気がかりです。

番号 4 について

悩みを抱えた子ども達や保護者・教職員等関係者相談延件数 1,169 件は、極めて重い課題です。教育相談事業の充実、推進は言わずもがなですが、子ども達や保護者、教職員が悩みを持つことのない、発生することのない教育の在り方が問われます。

2、学びの基礎を育む教育の充実

番号 8 について

平成 28 年度評価は B ランクです。事業の目的は、児童生徒の悩みやストレスの早期発見と心のケアを図り、いじめや不登校の未然防止と指導の充実となっています。いじめや増加している不登校という難しい問題で、評価 A を獲得するのは至難のこととされます。いじめや不登校については、早期発見が大事ですが、早期発見の時点で、既にそうした状況が発生してしまっていることで、適切な指導がないと時間の経過と共に解決が難しくなり、指導や対処に多大なエネルギーを必要とすることになります。

中学校区単位に小中兼務型相談員の派遣、Q-U の実施、司法福祉相談の実施、カウンセリングマインド向上研修の実施と事業内容は的を得ていますが、大事なことは、担任を中心にいじめや不登校を生み出さない学級をつくることで、番号 4 と同じようにこのための研究が極めて重要と考えます。

番号 9 について

地域の教育力活用推進事業は、平成 28 年度 A 評価となっています。元来、地域の人々は学校教育に対して協力的で、子どもの幅広い成長のためにこれまで大きな役割を果たしてきました。当事業はこれを機能的、組織的に推進することによって、健全な子どもの成長により大きな効果をあげていると考えられます。これは、学校支援地域本部事業を支えるボランティアの大幅な増加、学校評議員制度の定着化、コミュニティ・スクールの拡充等によって伺えます。私も、飯高中学校、香肌小学校のゲストティチャー、或いはボランティアとして子どもたちや教職員と接することにより、この事業の必要性を痛感しています。ただ、子どもたちの教育は学校教育が主体であることは否めないことと考えます。

番号 15 について

子どもたちが安全で安心して温かい状態で食べられる給食を原則に、給食センターの設置が望ましいと考えます。

3、市民による、市民のための生涯学習の推進

番号 17 について

青少年健全育成事業は、27・28 年度の評価は B となっています。検討課題にあるように行政主導のありようでは、家庭や地域の意欲を喚起できにくい。しかし、より魅力的な事業をもって行取が継続的で強い指導力を発揮すれば、地域の指導者の養成につながると考えます。

【前田則生委員】

平素は松阪市の子どもたちの教育に関して熱心に取り組まれ、40 の事業を計画通り達成されたことに対して、松阪市 P T A 聯合会を代表して感謝申し上げます。

保護者の代表としましては日ごろ子どもたちに質の高い教育と文化に触れあうまちづくりを実践された松阪市教育ビジョンでの取り組みを理解しなければならないと感じて

おります。そのため今回の教育委員会活動の第三者評価をさせていただきます。

学校教育(1～15)

15事業中14の事業がA判定されており、各事業の目的と内容が明確に示され、今後の事業への期待が大きく膨らみ、さらなる内容に円熟度が感じられます。

唯一のB判定の3の「教職員研修事業」は、保育士や教職員が忙しい立場でいかに研修や講座を受けてもらいやすくする環境づくりが急務に感じます。

家庭教育(16～20)

5事業中4事業がA判定で、これらの事業も各目的と内容が明確に示され、今後の事業への期待が大きく膨らみます。

唯一のB判定の17の「青少年健全育成事業」においては、地域の協力と指導者の養成をさらに推進しなければ実績が伸びないと感じます。

文化活動(21～28)

8事業中7事業がA判定で、これらの事業も各目的と内容が明確に示され今後の事業への期待が大きく膨らみます。

スポーツ活動(29～34)

6事業中6事業すべてがA判定されており、スポーツ各事業の目的と内容が明確に示され、今後の事業への期待が大きく膨らみますが、マンネリ化だけは防ぐ努力が必要です。

教育の創造(35～40)

6事業中6事業すべてがA判定されており、事業の目的と内容が明確に示され、今後の事業への期待が大きく膨らみ内容に円熟度が感じられます。

特に小学校のプールは、夏休みのPTAの事業にも大きく関係しますので、今後のあり方を見守りながら保護者の意見を十分に尊重して頂きたいと望みます。

また、小中学校施設維持修繕につきましても早急に対処して頂くと、子どもたちが安心安全な学校に守られている保護者の安心感が生まれます。学校等環境修繕工事(空調、トイレ洋式化)も検討委員会で十分に熟考されましたので早期の実施を強く望みます。

最後に教育ビジョンの基本理念である「夢を育み 未来を切り拓く 松阪の人づくり」を念頭におかれた各課の事業に対しての熱意が伝わってくる報告書の内容でした。今後の益々の活動を通して「夢ナビゲーション」の3つの子ども像の実現を目指して頂きたいと望みます。

V おわりに

平成 19 年度から実施している教育委員会の点検・評価は、毎年「松阪市教育ビジョン」に基づき中長期的な視点に立って、本市の教育振興のための施策を着実に実現できるように各所管が目標を掲げ、事業展開を行っております。

今回は、平成 19 年度に策定した教育ビジョンの最終年度として、「夢ナビゲーション」の 3 つの子ども像の具現化のための各事業について評価を受けました。

第三者評価委員の方から、教育施設、教育環境の早期の整備や時代の流れに応じた新しい教育の創造への対応の必要性等についてご指摘を受けました

平成 29 年度 4 月からスタートした新しい教育ビジョンの具現化を図っていくためにも、今後も市民にとってわかりやすい事業展開を図るとともに、引き続き効果的な教育行政の推進に努めてまいります。